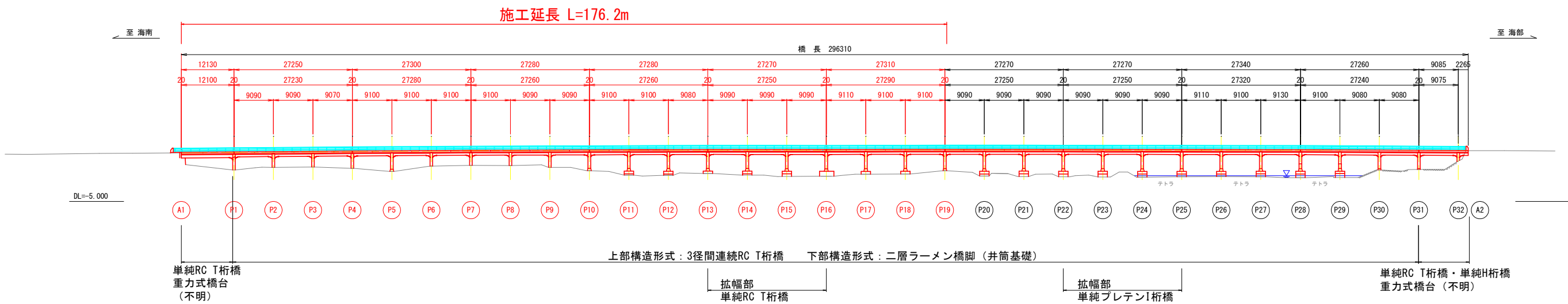
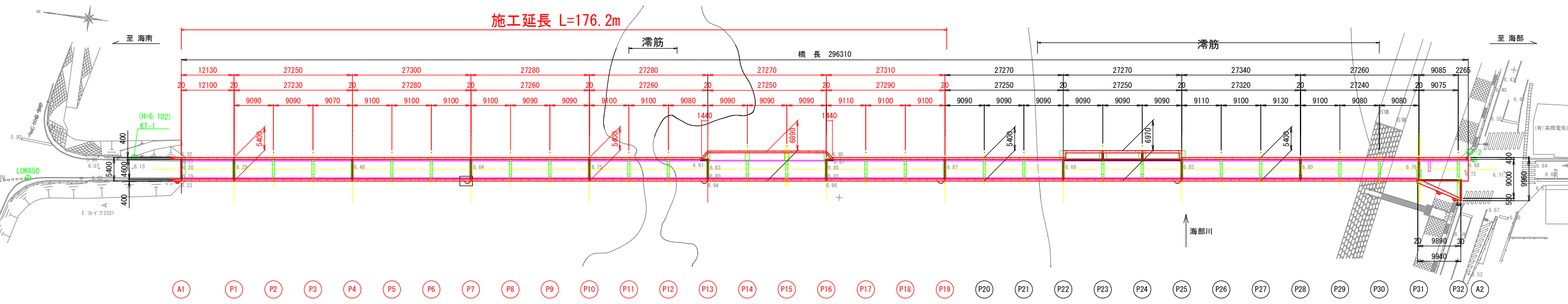


海部川橋 補修一般図(1)

側面図 S=1:500



平面図 S=1:500

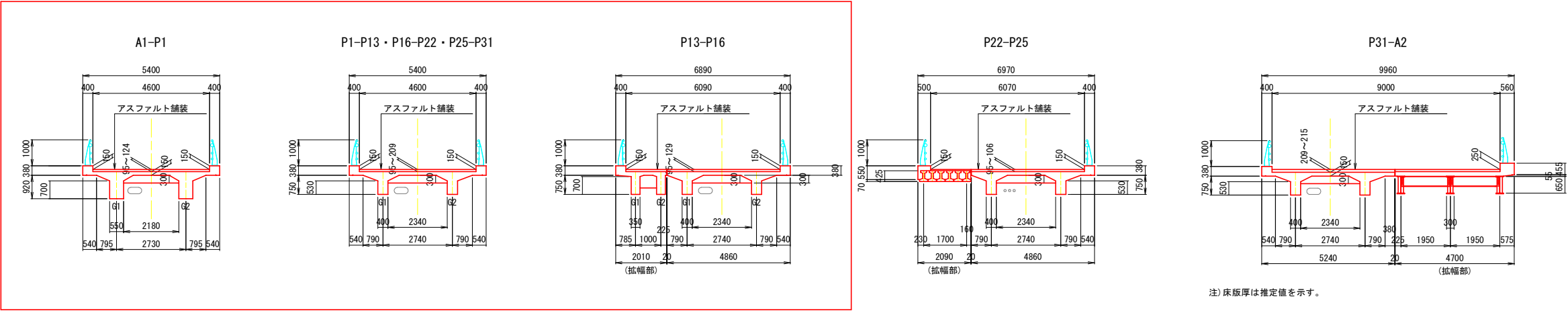


当初設計図面

工事名	R7波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図面名	海部川橋 補修一般図 (1)		
縮尺	1/500	図面番号	1 / 36
会社名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 補修一般図(2)

標準断面図 S=1:100



橋梁諸元等データ (橋梁台帳より抜粋)

橋梁名称	海部川橋	橋長	296.30m	上部工	張り出し式ラーメン(RC)	11	高欄・防護柵	車道端(左右)	高欄・防護柵の別	高欄
管理者	徳島県	径間数	33		単純RCT桁(RC)	4			材質(材料)	鋼製
路線名	四方原海部線	支間長	9.1m		単純PCI桁(PC)	3			形式	柱式
路線コード	0299	全幅員	5.400m		単純H桁(鋼)	1			高さ	1.000m
道路種別	一般都道府県道	有効幅員	4.600m	下部工	重力式橋台(不明)	2	交通条件	調査年度：令和3年度		
緊急輸送路の指定	無	平面形状	直線		ラーメン橋脚(井筒基礎)	32		交通量：179台 / 昼間12時間		
架橋条件	河川(二級河川 海部川)	等級	2等橋	床版	材料：コンクリート	t=15cm	交通規制	荷重制限(8t)		
所在地	海陽町大里～海陽町奥浦	適用示方書	大正15年道示		防水工(シート系)	1352.6m2	塩害地域区分	C(平成29年道示：海岸からの距離600m)		
緯度・経度	33.59845325, 134.35745833	架設(供用)年次	昭和15年(1940年)	舗装	アスファルト	1352.6m2	迂回路	有(国道55号)		
距離標	1.792km	設計活荷重	TL-14		舗装厚	6～21cm	照明	LED灯 6基(6灯)		

海部川橋_対策工法一覧表

部材		部位(箇所)	代表的な変状の種類	補修工法		部材		部位(箇所)	代表的な変状の種類	補修工法	
上部構造	主桁	標準部 (単純RC T桁 3径間連続RC T桁)	ひびわれ・うき 剥離・鉄筋露出 漏水(伝い水)・遊離石灰	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法	・ひびわれ充填工法 ・表面含浸工	下部構造	標準部 拡幅部	橋台(重力式) 橋脚(柱・梁)	ひびわれ・うき・漏水痕 剥離・鉄筋露出 遊離石灰・不法占用	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法	・ひびわれ充填工法 ・表面被覆工
		拡幅部1 第14～第16径間 (単純RC T桁)	ひびわれ・うき 剥離・鉄筋露出	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法	・ひびわれ充填工法			フーチング	ひびわれ・うき・?離	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法	・ひびわれ充填工法
		拡幅部2 第23～第25径間 (単純ブレンT桁)	漏水痕(伝い水)	・水切り設置工				鋪りコンクリート	ひびわれ・断面欠損 うき・剥離・鉄筋露出	・断面修復工法(原形復旧)	
	横桁	拡幅部3 第32径間 (単純H桁)	発錆、腐食	・部分塗替え塗装工(Rc-1)		支承	標準部		健全	・対策工不要	
		標準部 (単純RC T桁 3径間連続RC T桁)	ひびわれ・うき 剥離・鉄筋露出・漏水	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法	・ひびわれ充填工法		拡幅部1	第14～第16径間	健全	・対策工不要	
		拡幅部1 第14～第16径間 (単純ブレンT桁)	健全	・対策工不要			拡幅部2	第23～第25径間 (単純ブレンT桁)	健全	・対策工不要	
		拡幅部3 第32径間 (単純H桁)	健全	・対策工不要			拡幅部3	第32径間 (単純H桁)	ゴム支承に錆汁の付着	・対策工不要	
	床版	主桁間床版	ひびわれ・うき 遊離石灰	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法		その他	防護柵	橋面両側	防食機能の劣化 エンドキャップ欠落	・対策工不要(経過観察) ・エンドキャップ補充	
		張出床版	ひびわれ・漏水(伝い水) うき・剥離・鉄筋露出 遊離石灰	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法	・ひびわれ充填工法		地覆	橋面両側	ひびわれ・うき 鉄筋露出・欠損 遊離石灰	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法	・ひびわれ充填工法
	As舗装						伸縮装置	橋面(伸縮装置本体、 後打ちConc)	鋼製部材の腐食・変形 止水ゴムの劣化・変形 ひびわれ・鉄筋露出	・伸縮装置本体取替 ・後打ちConc(ひびわれ注入工法、ひびわれ充填 工法、断面修復工法)	
								橋面	ひびわれ・うき 路面の凹凸	・第1～第16径間、第32径間(拡幅部) ：As舗装打換工(切削オーバーレイ工法(表層)) ・第17～第32径間：対策工不要	

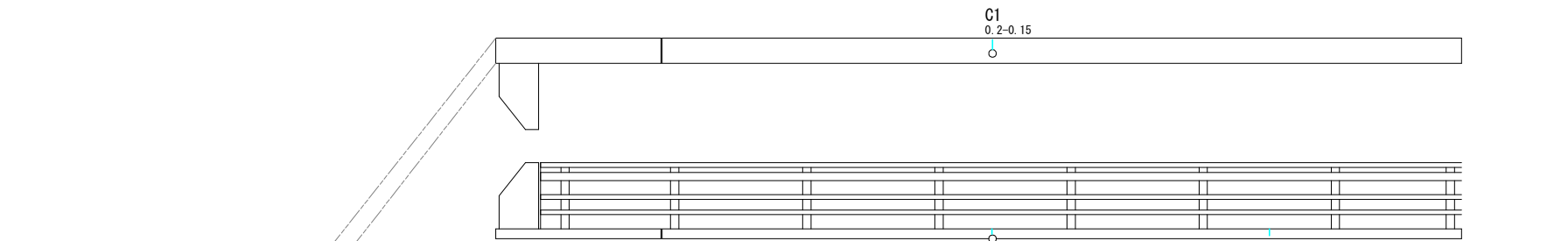
当初設計図面

工事名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図面名	海部川橋 補修一般図(2)		
縮尺	1/100	図面番号	2 / 36
会社名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

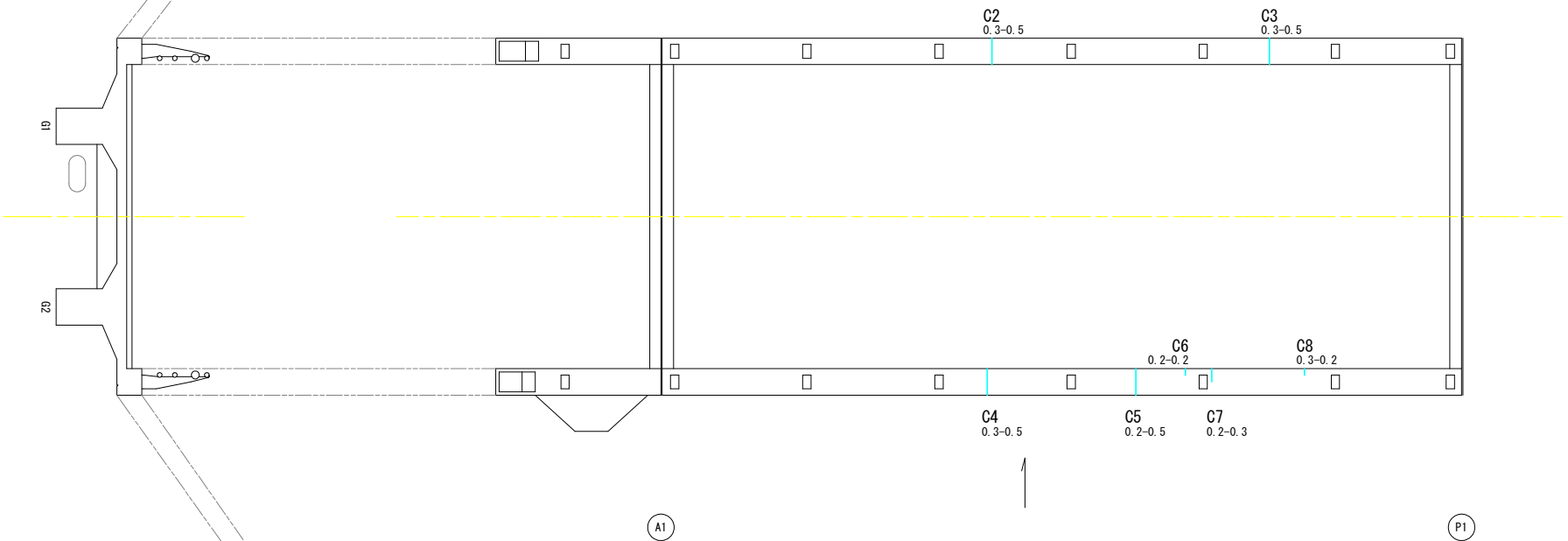
海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その1) S=1:50

橋面A1-P1

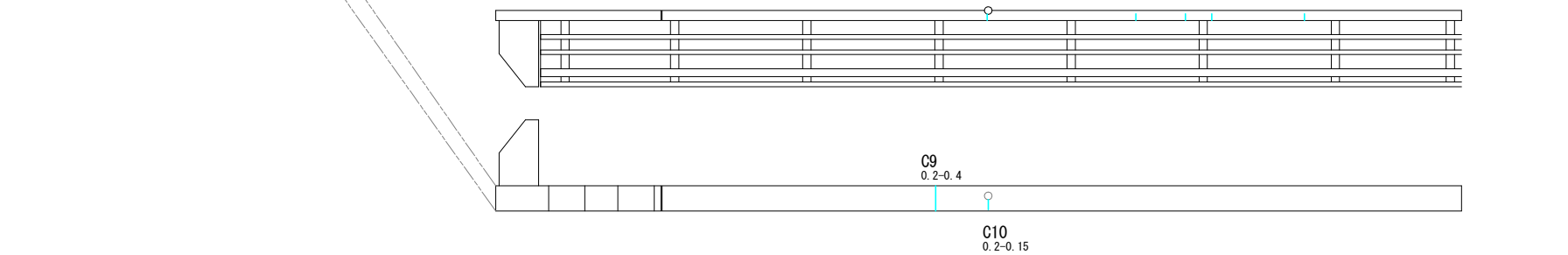
側面図(下流側)



平面図



側面図(上流側)



1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは折り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	 幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	 幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	 幅(mm)-長さ(m)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.15
C2	0.50
C3	0.50
C4	0.50
C5	0.50
C6	0.20
C7	0.30
C8	0.20
C9	0.40
C10	0.15
計	3.40 m

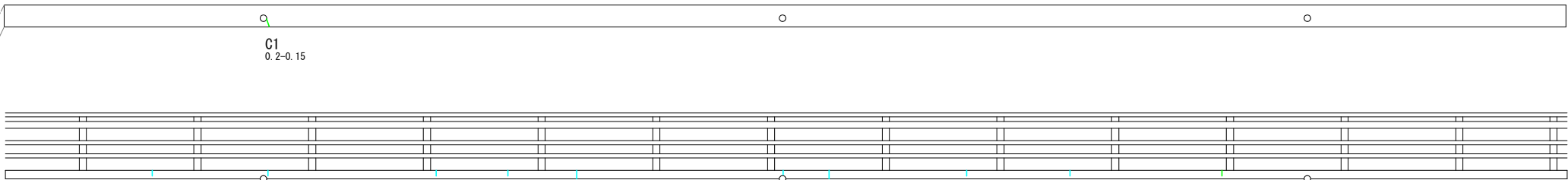
当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その1)		
縮 尺	1/50	図面番号	3 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

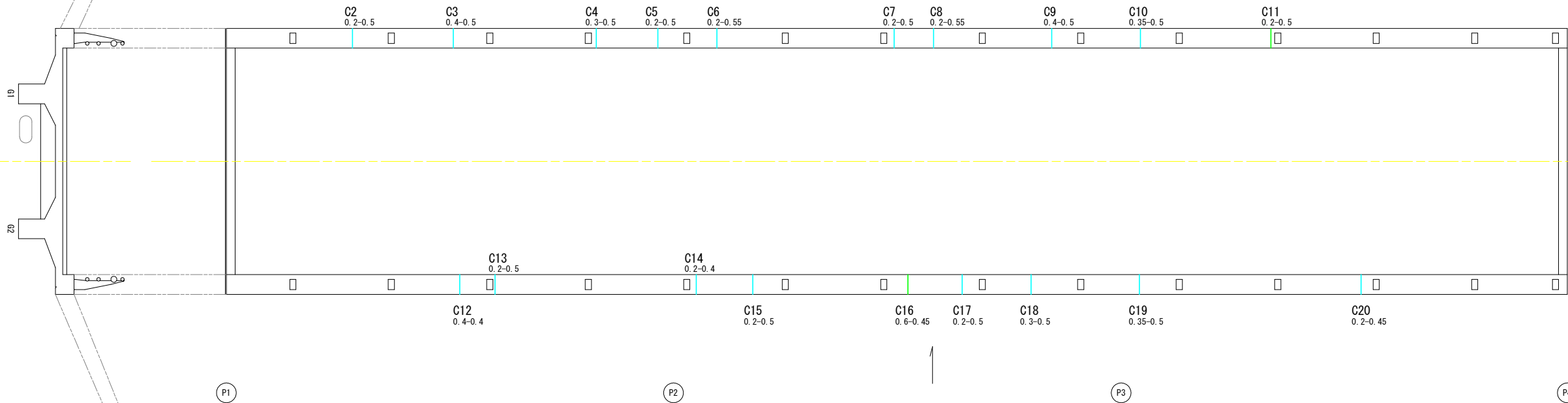
海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その2) S=1:50

橋面P1-P4

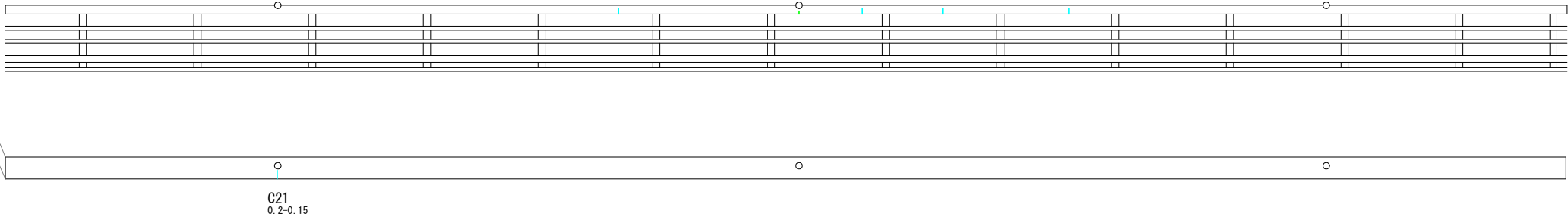
側面図(下流側)



平面図



側面図(上流側)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
" (幅0.5~1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.15
C2	0.50
C3	0.50
C4	0.50
C5	0.50
C6	0.55
C7	0.50
C8	0.55
C9	0.50
C10	0.50
C11	0.50
C12	0.40
C13	0.50
C14	0.40
C15	0.50
C16	0.45
C17	0.50
C18	0.50
C19	0.50
C20	0.45
C21	0.15
計	9.60 m

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは切り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R 7 波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その2)		
縮 尺	1/50	図面番号	4 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

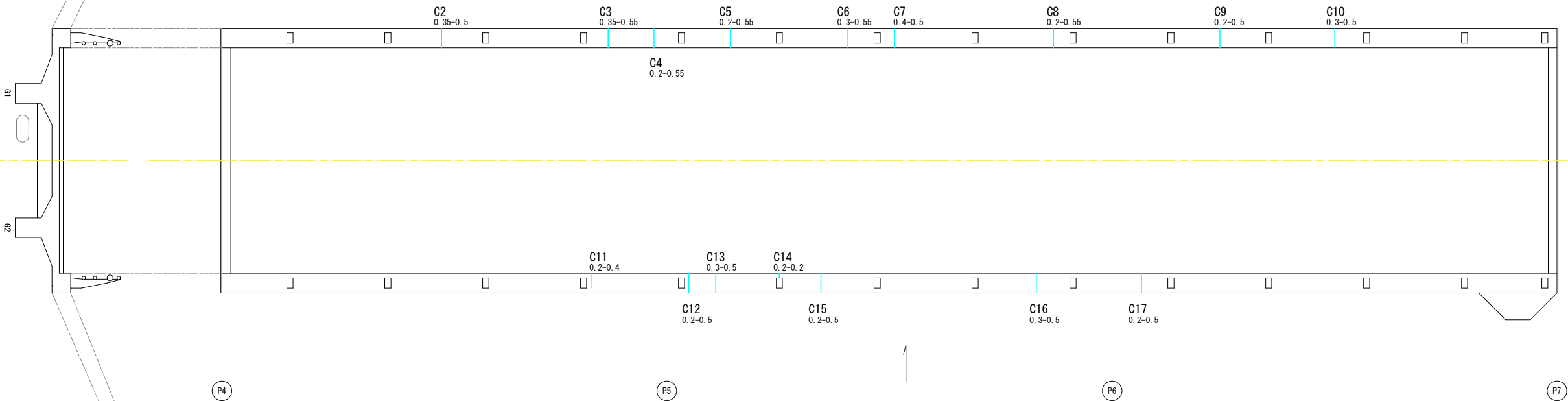
海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その3) S=1:50

橋面P4-P7

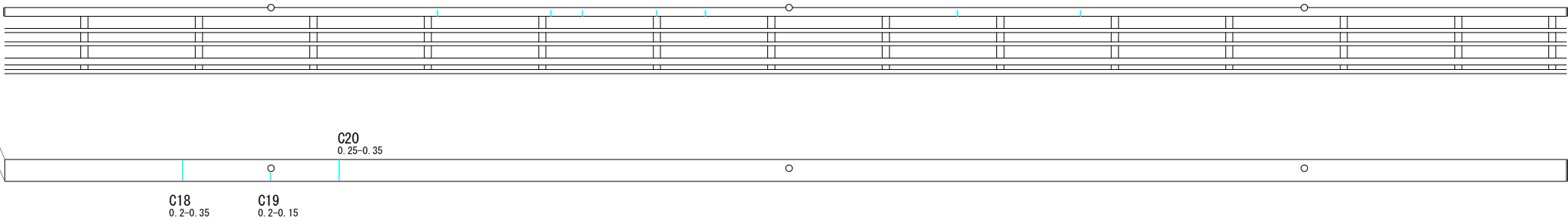
側面図(下流側)



平面図



側面図(上流側)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.35
C2	0.50
C3	0.55
C4	0.55
C5	0.55
C6	0.55
C7	0.50
C8	0.55
C9	0.50
C10	0.50
C11	0.40
C12	0.50
C13	0.50
C14	0.20
C15	0.50
C16	0.50
C17	0.50
C18	0.35
C19	0.15
C20	0.35
計	9.05 m

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深处まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

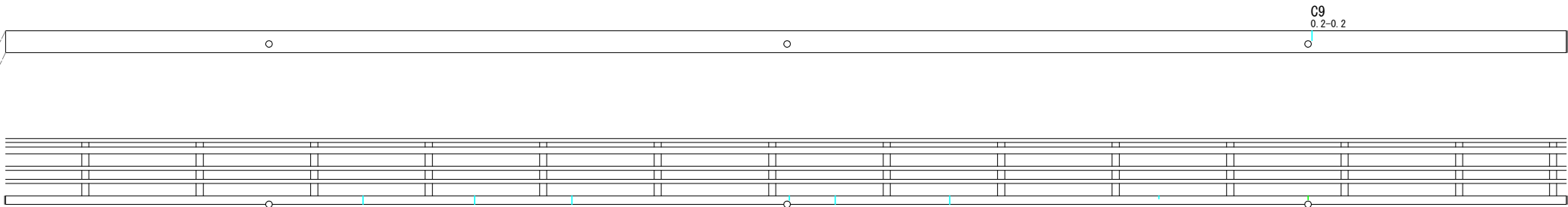
当初設計図面

工 事 名	R 7 波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その3)		
縮 尺	1/50	図面番号	5 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

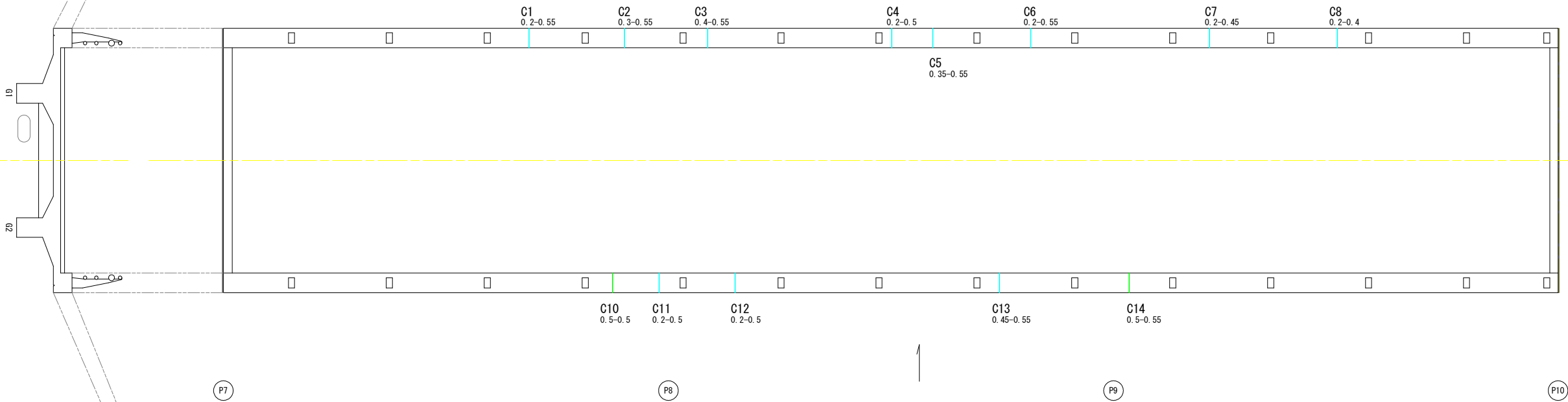
海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その4) S=1:50

橋面P7-P10

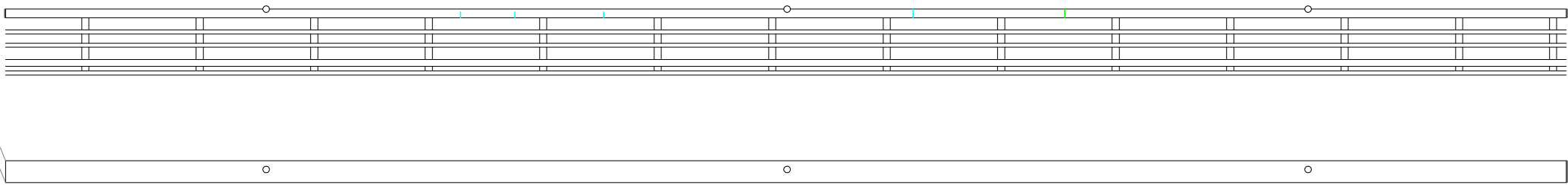
側面図(下流側)



平面図



側面図(上流側)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.55
C2	0.55
C3	0.55
C4	0.50
C5	0.55
C6	0.55
C7	0.45
C8	0.40
C9	0.20
C10	0.50
C11	0.50
C12	0.50
C13	0.55
C14	0.55
計	6.90 m

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは切り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

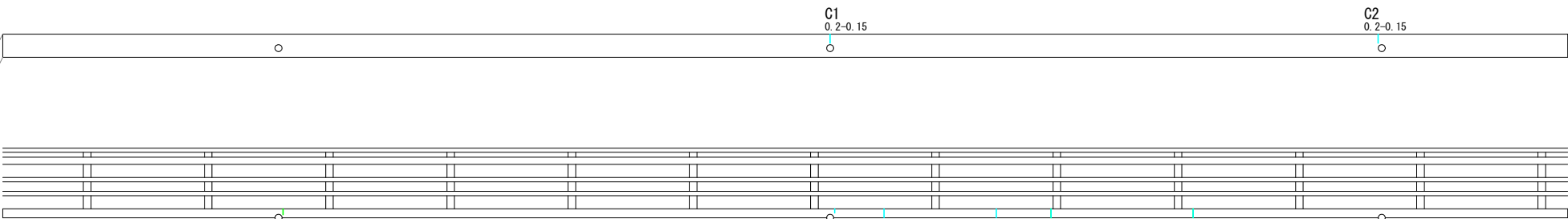
当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その4)		
縮 尺	1/50	図面番号	6 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

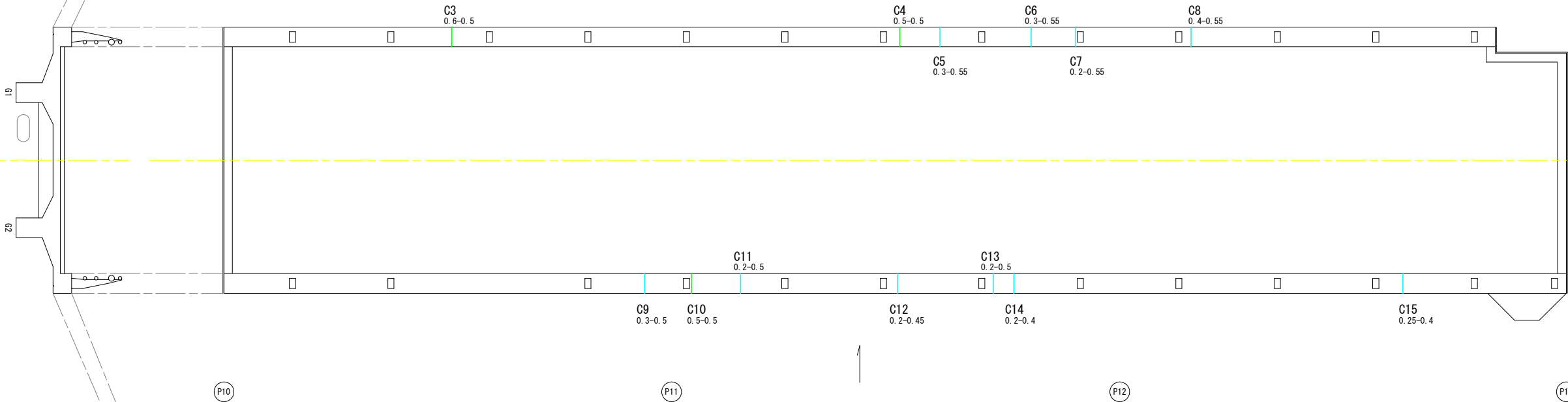
海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その5) S=1:50

橋面P10-P13

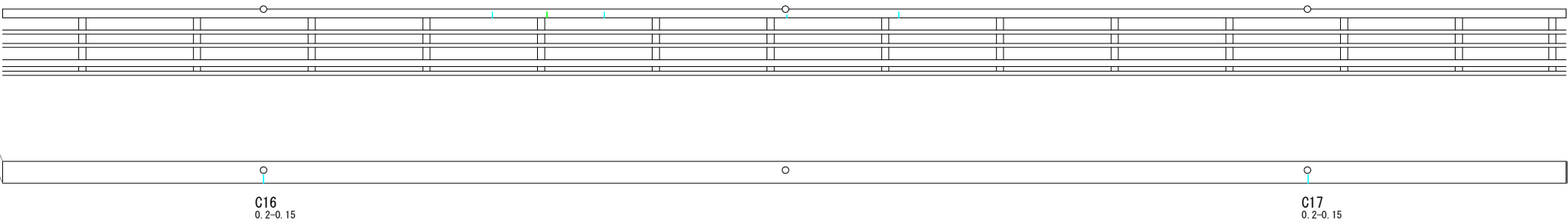
側面図(下流側)



平面図



側面図(上流側)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	 幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	 幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	 幅(mm)-長さ(m)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.15
C2	0.15
C3	0.50
C4	0.50
C5	0.55
C6	0.55
C7	0.55
C8	0.55
C9	0.50
C10	0.50
C11	0.50
C12	0.45
C13	0.50
C14	0.40
C15	0.40
C16	0.15
C17	0.15
計	7.05 m

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは切り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

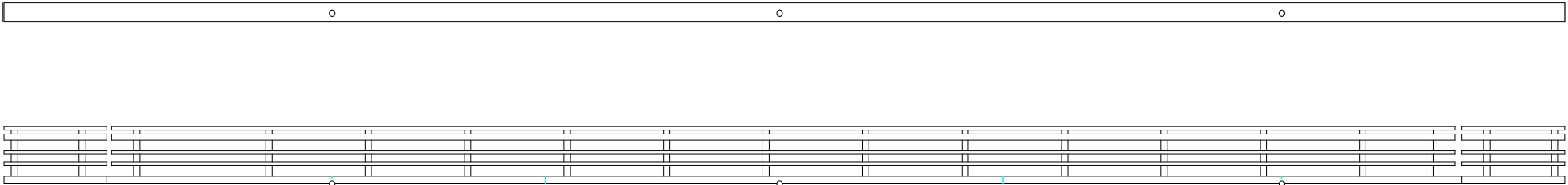
当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その5)		
縮 尺	1/50	図面番号	7 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

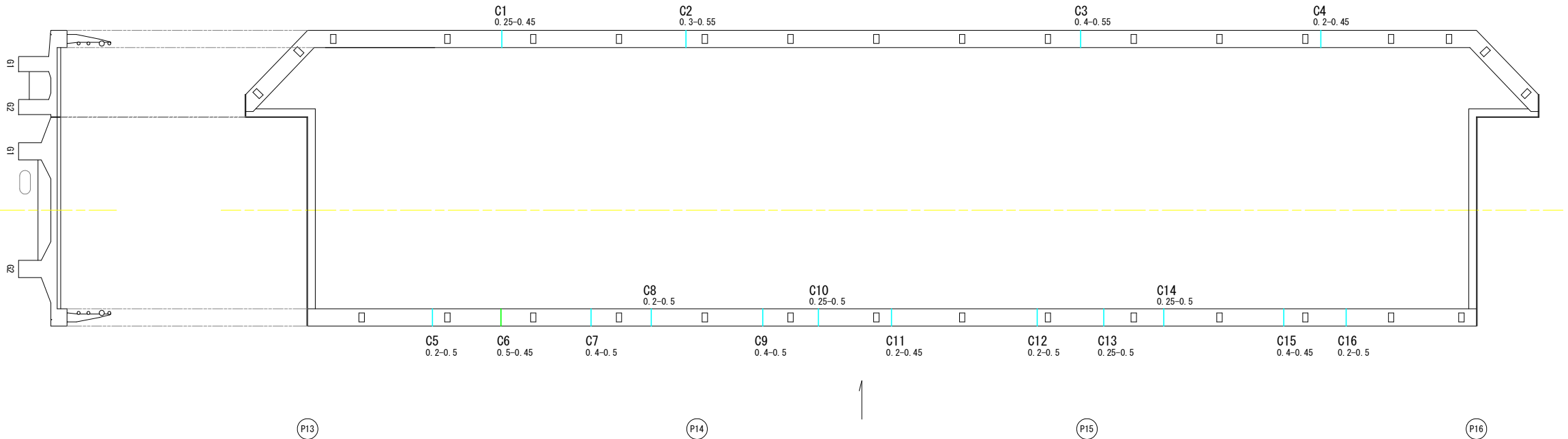
海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その6) S=1:60

橋面P13-P16

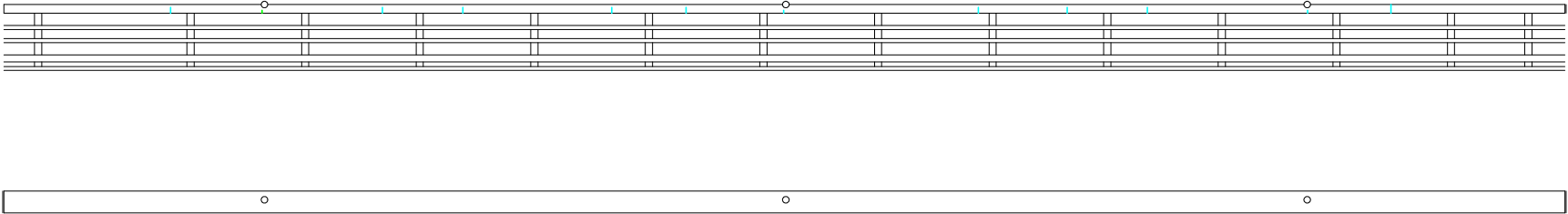
側面図(下流側)



平面図



側面図(上流側)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	 幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	 幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	 幅(mm)-長さ(m)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.45
C2	0.55
C3	0.55
C4	0.45
C5	0.50
C6	0.45
C7	0.50
C8	0.50
C9	0.50
C10	0.50
C11	0.45
C12	0.50
C13	0.50
C14	0.50
C15	0.45
C16	0.50
計	7.85 m

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深处まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは切り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R 7 波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その6)		
縮 尺	1/60	図面番号	8 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

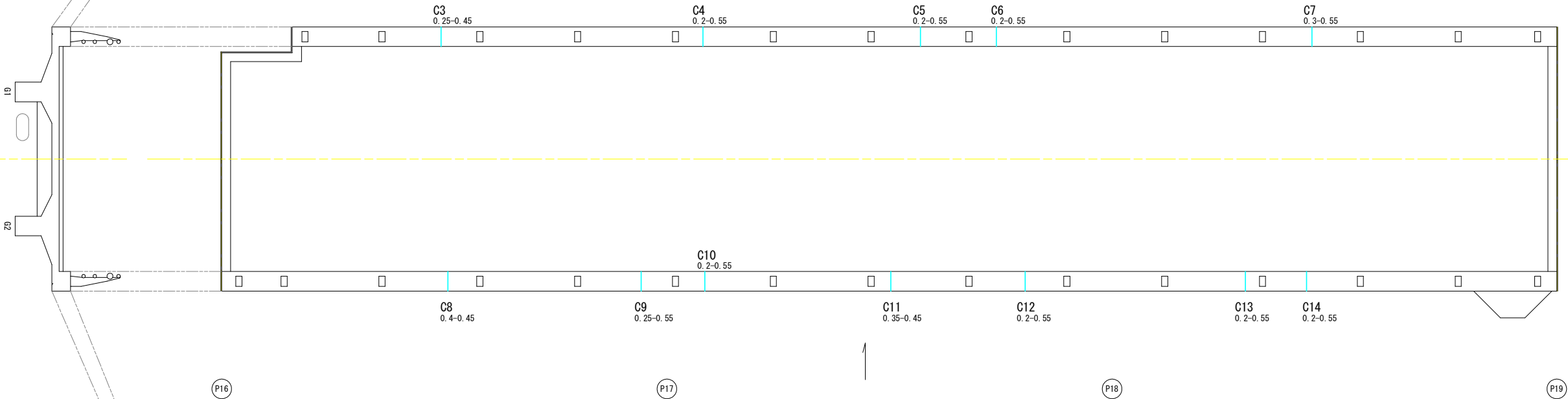
海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その7) S=1:50

橋面P16-P19

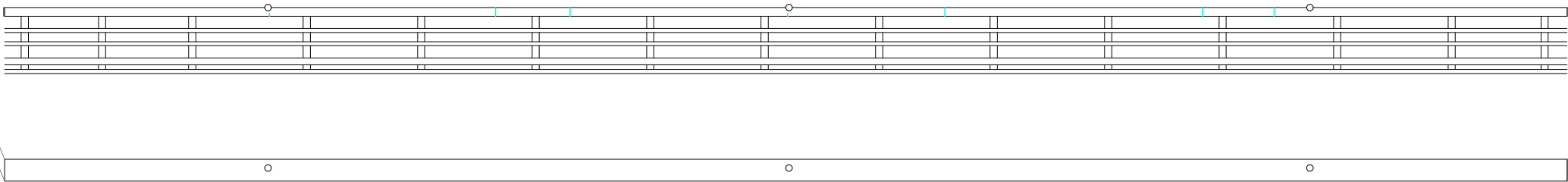
側面図(下流側)



平面図



側面図(上流側)



補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.30
C2	0.35
C3	0.45
C4	0.55
C5	0.55
C6	0.55
C7	0.55
C8	0.45
C9	0.55
C10	0.55
C11	0.45
C12	0.55
C13	0.55
C14	0.55
計	6.95 m

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは切り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

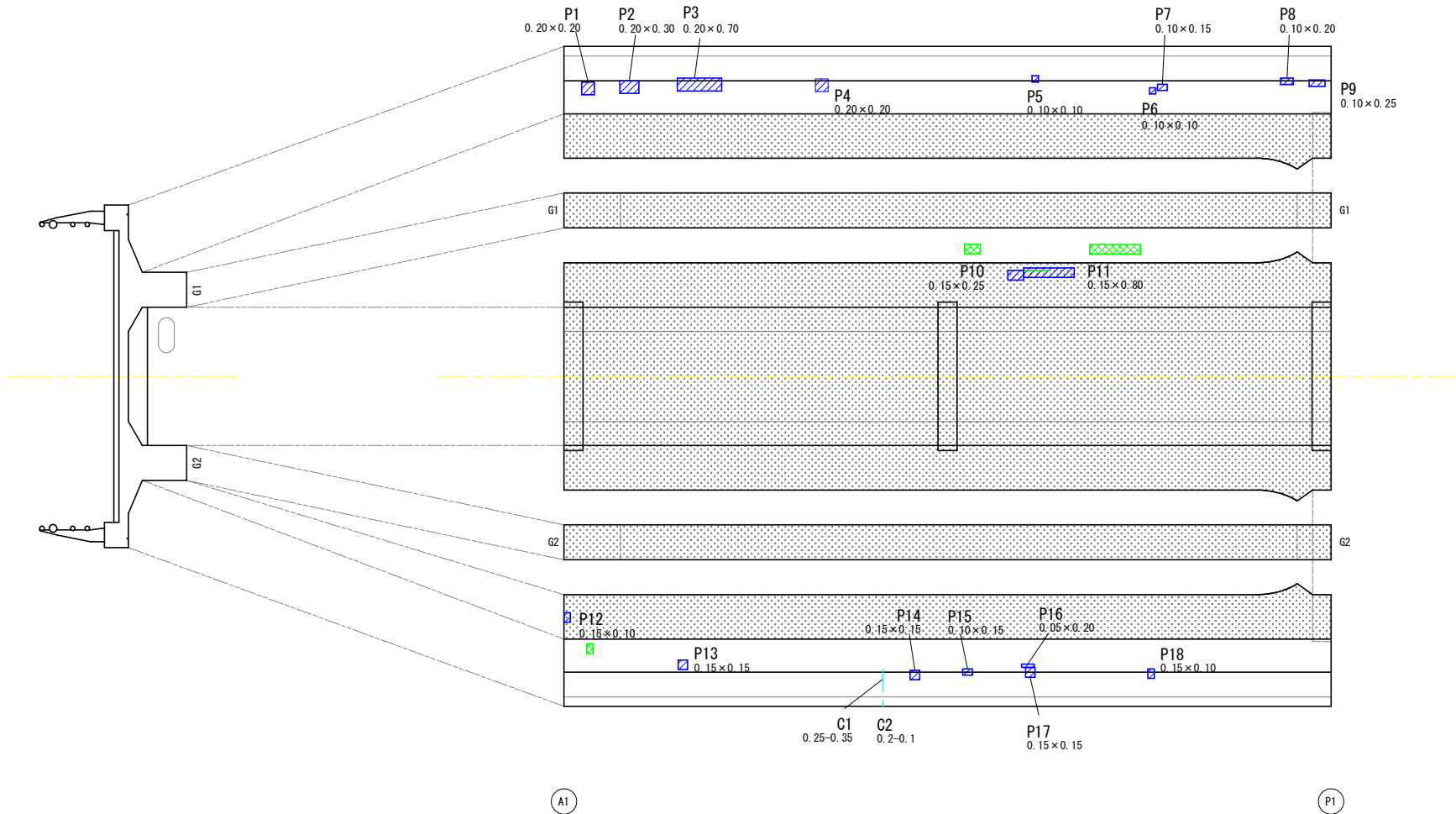
当初設計図面

工事名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図面名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その7)		
縮尺	1/50	図面番号	9 / 36
会社名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

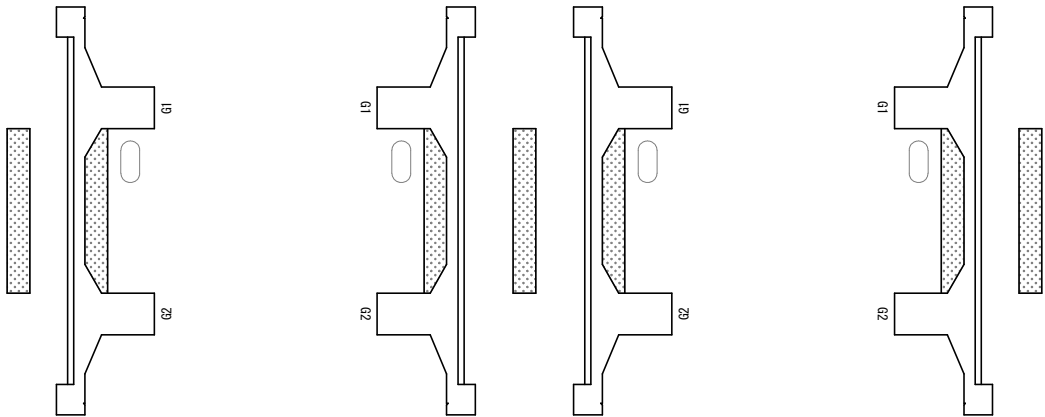
海部川橋 上部工補修図(その8)

S=1:50

桁下A1-P1



横桁



1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。

3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。

4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。

6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。

7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)×長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)×長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)×長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	

桁下A1-P1

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.35
C2	0.10
計	0.45 m

断面修復工

測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P1	0.20	× 0.20	0.040
P2	0.20	× 0.30	0.060
P3	0.20	× 0.70	0.140
P4	0.20	× 0.20	0.040
P5	0.10	× 0.10	0.010
P6	0.10	× 0.10	0.010
P7	0.10	× 0.15	0.015
P8	0.10	× 0.20	0.020
P9	0.10	× 0.25	0.025
P10	0.15	× 0.25	0.038
P11	0.15	× 0.80	0.120
P12	0.15	× 0.10	0.015
P13	0.15	× 0.15	0.023
P14	0.15	× 0.15	0.023
P15	0.10	× 0.15	0.015
P16	0.05	× 0.20	0.010
P17	0.15	× 0.15	0.023
P18	0.15	× 0.10	0.015
合計			0.642 m2

表面含浸工

合計 0.17m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

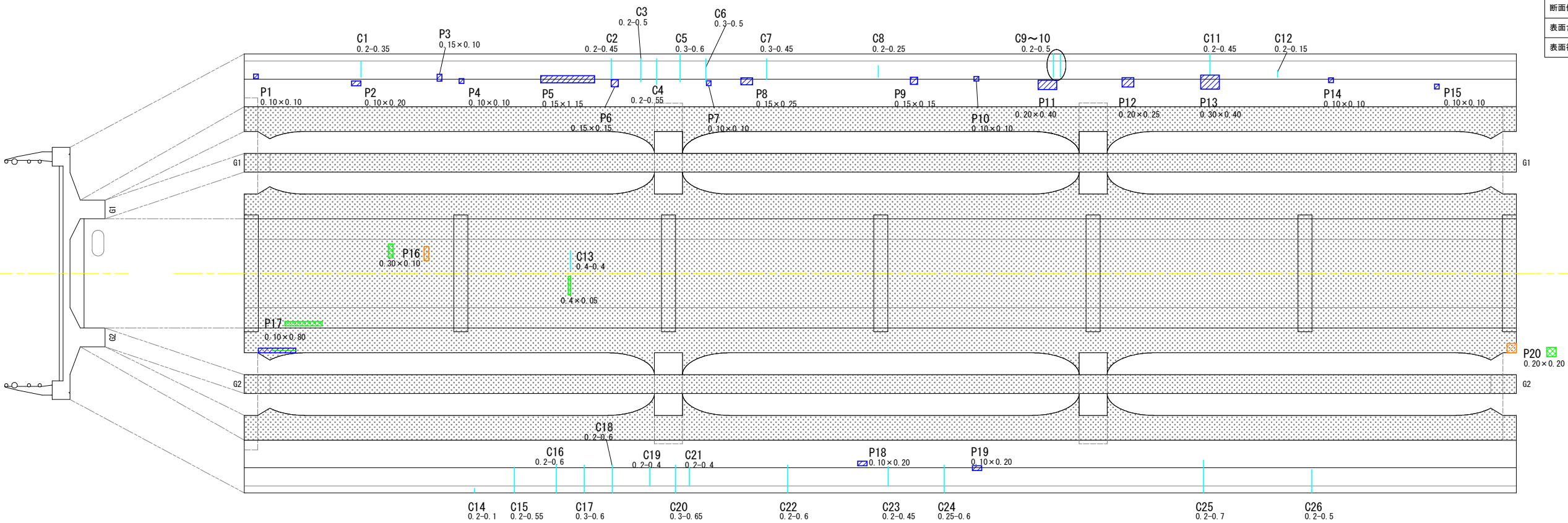
当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その8)		
縮 尺	1/50	図面番号	10 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 上部工補修図(その9)

S=1:50

桁下P1-P4



凡 例	
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)×長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)×長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)×長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	

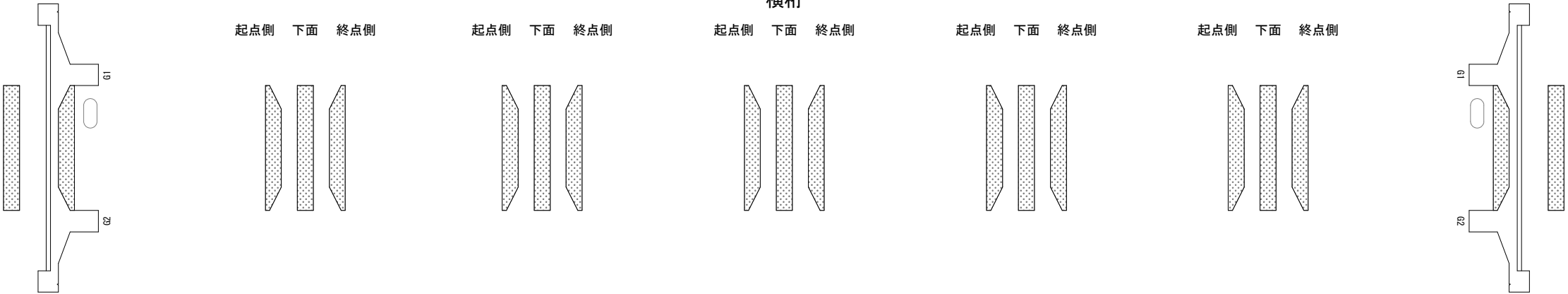
ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満		
測点	数量	
C1	0.35	
C2	0.45	
C3	0.50	
C4	0.55	
C5	0.60	
C6	0.50	
C7	0.45	
C8	0.25	
C9	0.50	
C10	0.50	
C11	0.45	
C12	0.15	
C13	0.40	
C14	0.10	
C15	0.55	
C16	0.60	
C17	0.60	
C18	0.60	
C19	0.40	
C20	0.65	
C21	0.40	
C22	0.60	
C23	0.45	
C24	0.60	
C25	0.70	
C26	0.50	
計	12.40 m	

表面含浸工

合計 0.02m2

横桁



桁下P1-P4

断面修復工

測点	寸法 (m)		面積 (m2)	測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P1	0.10	×	0.10	P10	0.10	×	0.010
P2	0.10	×	0.20	P11	0.20	×	0.040
P3	0.15	×	0.10	P12	0.20	×	0.050
P4	0.10	×	0.10	P13	0.30	×	0.120
P5	0.15	×	1.15	P14	0.10	×	0.010
P6	0.15	×	0.15	P15	0.10	×	0.010
P7	0.10	×	0.10	P17	0.10	×	0.080
P8	0.15	×	0.25	P18	0.10	×	0.020
P9	0.15	×	0.15	P19	0.10	×	0.020
合計			0.722 m2				

既設被覆材除去

測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P16	0.30	×	0.030
P20	0.20	×	0.040
合計			0.070 m2

表面含浸工

合計 0.15m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除きを行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

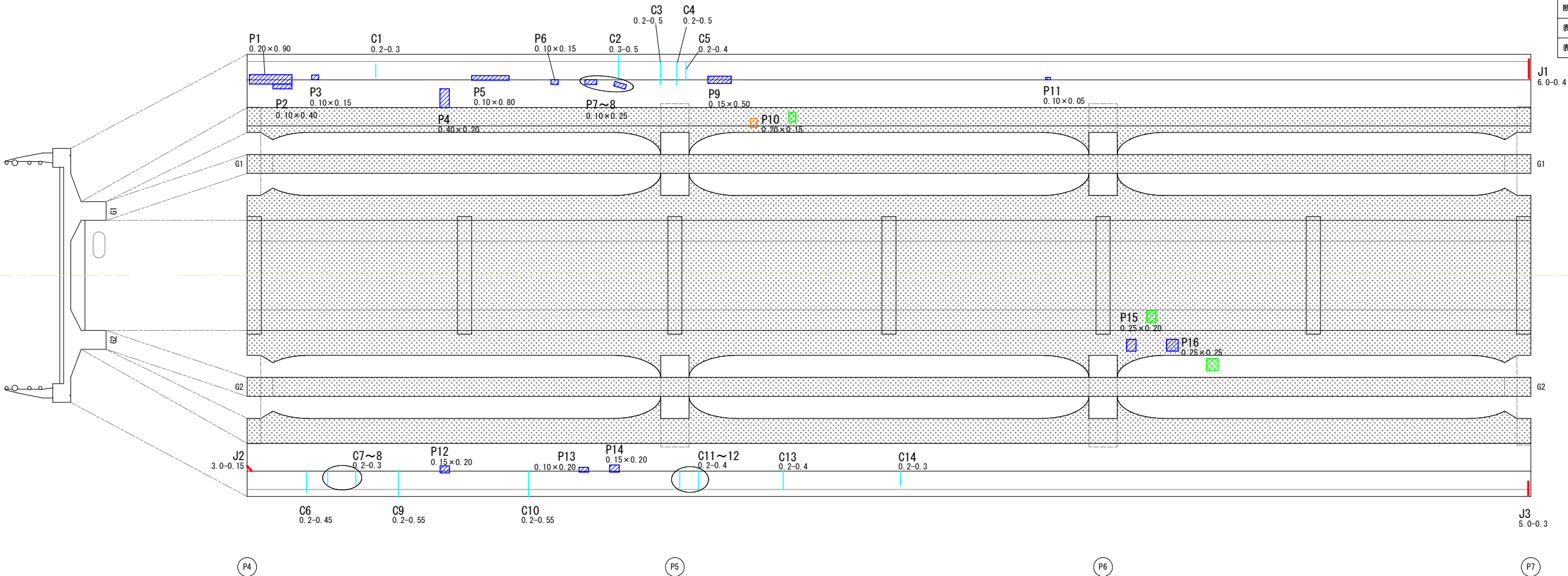
当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その9)		
縮 尺	1/50	図面番号	11 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 上部工補修図(その10)

S=1:50

桁下P4-P7



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	

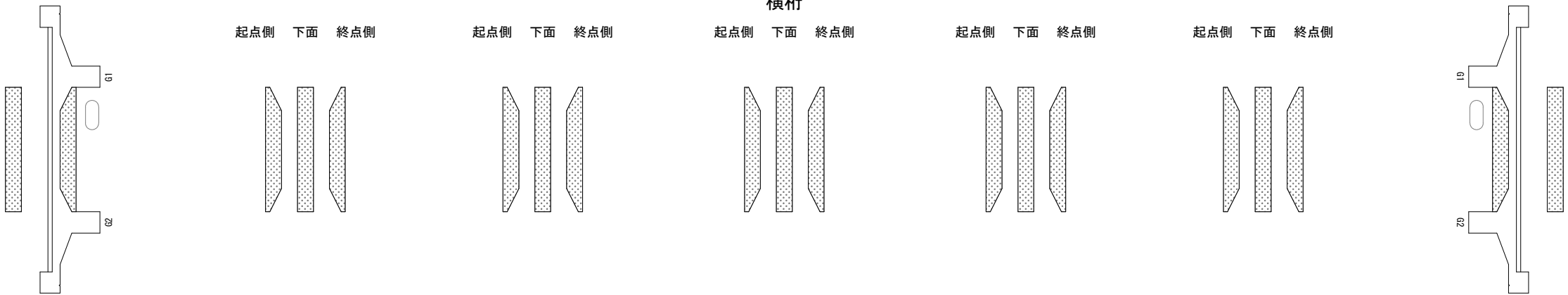
ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.30
C2	0.50
C3	0.50
C4	0.50
C5	0.40
C6	0.45
C7	0.30
C8	0.30
C9	0.55
C10	0.55
C11	0.40
C12	0.40
C13	0.40
C14	0.30
計	5.85 m

ひびわれ充填工

幅1.0以上	
測点	数量
J1	0.40
J2	0.15
J3	0.30
計	0.85 m

横桁



桁下P1-P4

断面修復工

測点	寸法 (m)		面積 (m2)	測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P1	0.20	× 0.90	0.180	P11	0.10	× 0.05	0.005
P2	0.10	× 0.40	0.040	P12	0.15	× 0.20	0.030
P3	0.10	× 0.15	0.015	P13	0.10	× 0.20	0.020
P4	0.40	× 0.20	0.080	P14	0.15	× 0.20	0.030
P5	0.10	× 0.80	0.080	P15	0.25	× 0.20	0.050
P6	0.10	× 0.15	0.015	P16	0.25	× 0.25	0.063
P7	0.10	× 0.25	0.025				
P8	0.10	× 0.25	0.025				
P9	0.15	× 0.50	0.075				
合計							0.733 m2

既設被覆材除去

測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P10	0.20	× 0.15	0.030
合計			0.030 m2

表面含浸工

合計 0.14m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除くを行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その10)		
縮 尺	1/50	図面番号	12 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

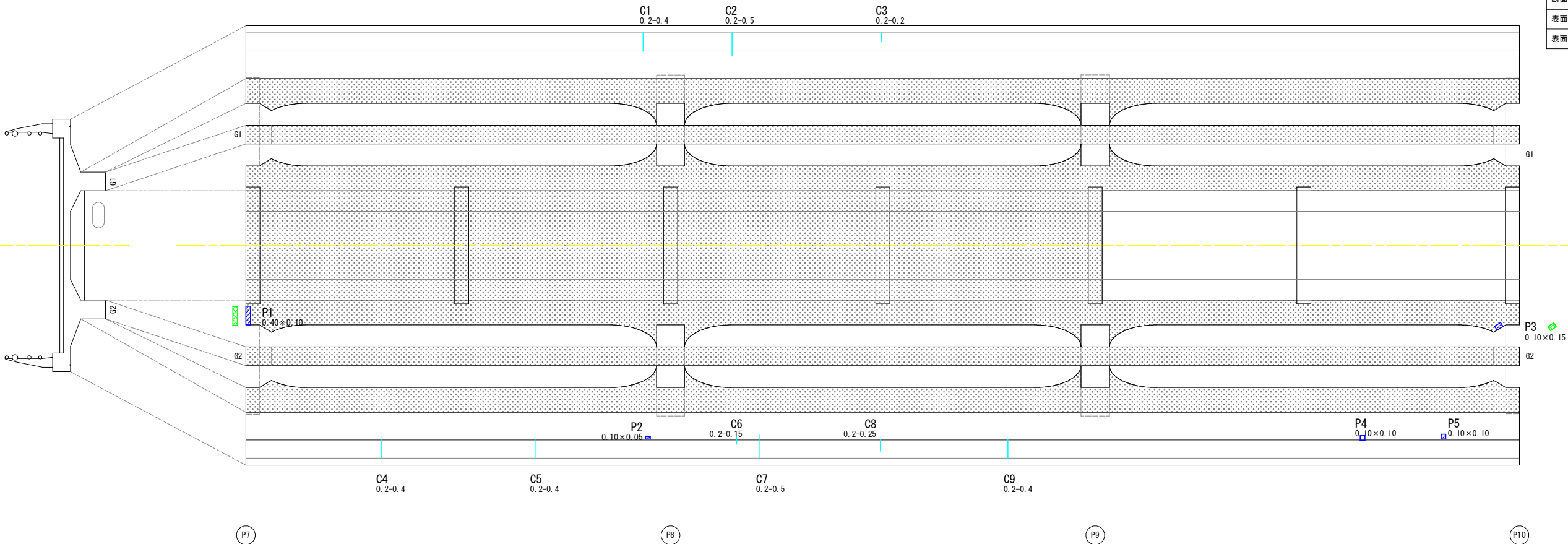
海部川橋 上部工補修図(その11)

S=1:50

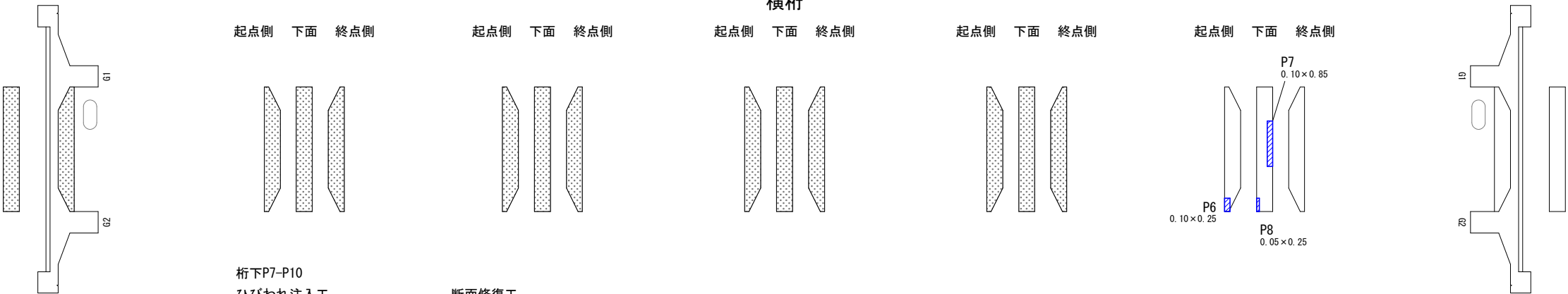
桁下P7-P10

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)×長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)×長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)×長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	



横桁



桁下P7-P10

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.40
C2	0.50
C3	0.20
C4	0.40
C5	0.40
C6	0.15
C7	0.50
C8	0.25
C9	0.40
計	3.20 m

断面修復工

測点	寸法 (m)			面積 (m2)
P1	0.40	×	0.10	0.040
P2	0.10	×	0.05	0.005
P3	0.10	×	0.15	0.015
P4	0.10	×	0.10	0.010
P5	0.10	×	0.10	0.010
P6	0.10	×	0.25	0.025
P7	0.10	×	0.85	0.085
P8	0.05	×	0.25	0.013
合計				0.203 m2

表面含浸工

合計 0.06m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除くとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R 7 波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一） 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図（その11）		
縮 尺	1/50	図面番号	13 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

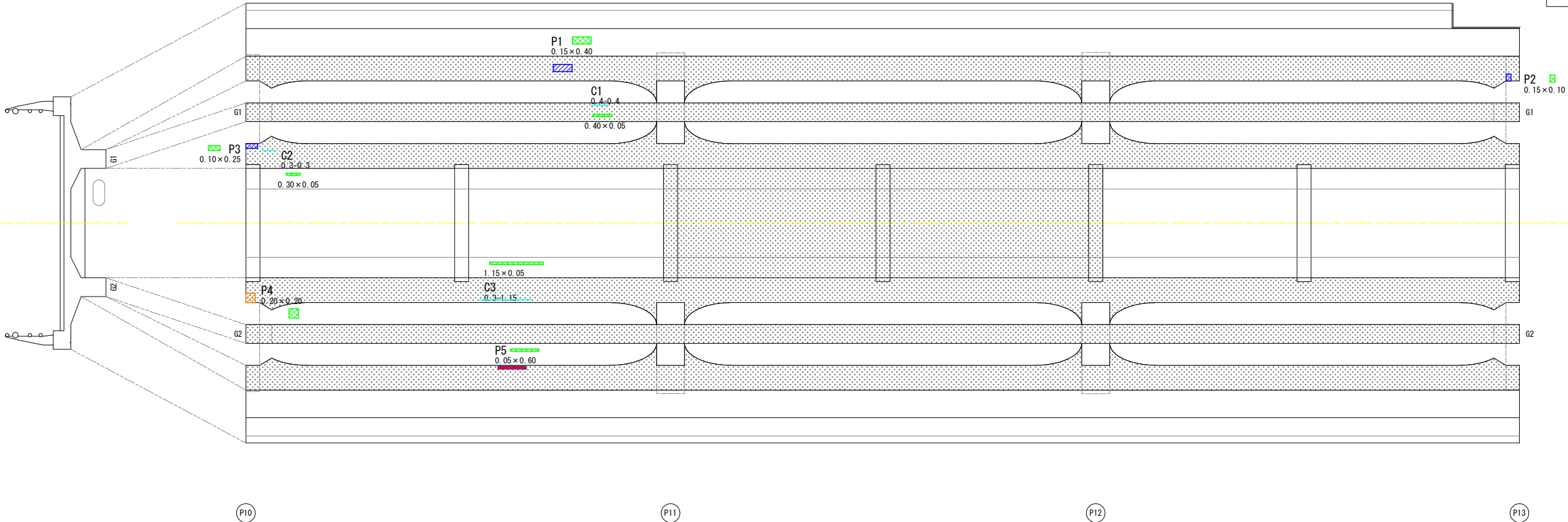
海部川橋 上部工補修図(その12)

S=1:50

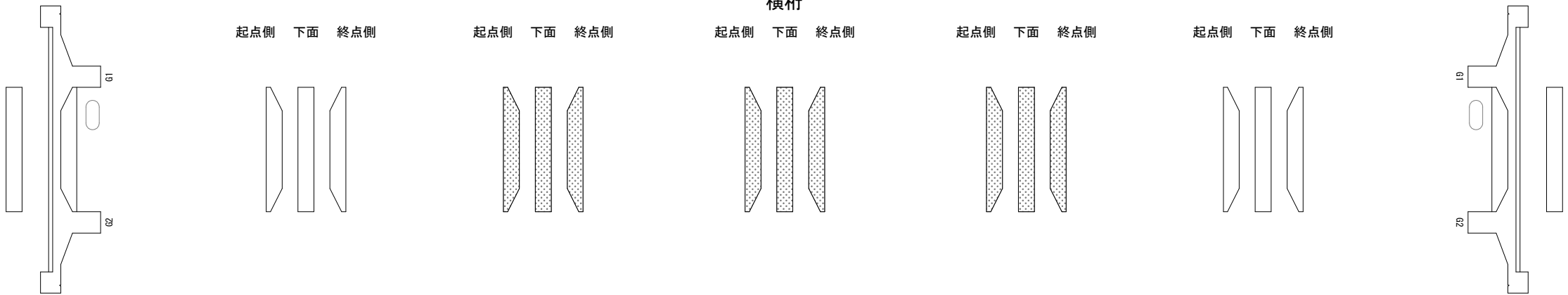
桁下P10-P13

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	



横桁



桁下P7-P10

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.40
C2	0.30
C3	1.15
計	1.85 m

表面含浸工

合計 0.09m2

断面修復工

測点	寸法 (m)			面積 (m2)
P1	0.15	×	0.40	0.060
P2	0.15	×	0.10	0.015
P3	0.10	×	0.25	0.025
P5	0.05	×	0.60	0.030
合計				0.130 m2

既設被覆材除去

測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P4	0.20	× 0.20	0.040
合計			0.040 m2

表面含浸工

合計 0.17m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除くとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その12)		
縮 尺	1/50	図面番号	14 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部〈美波〉		

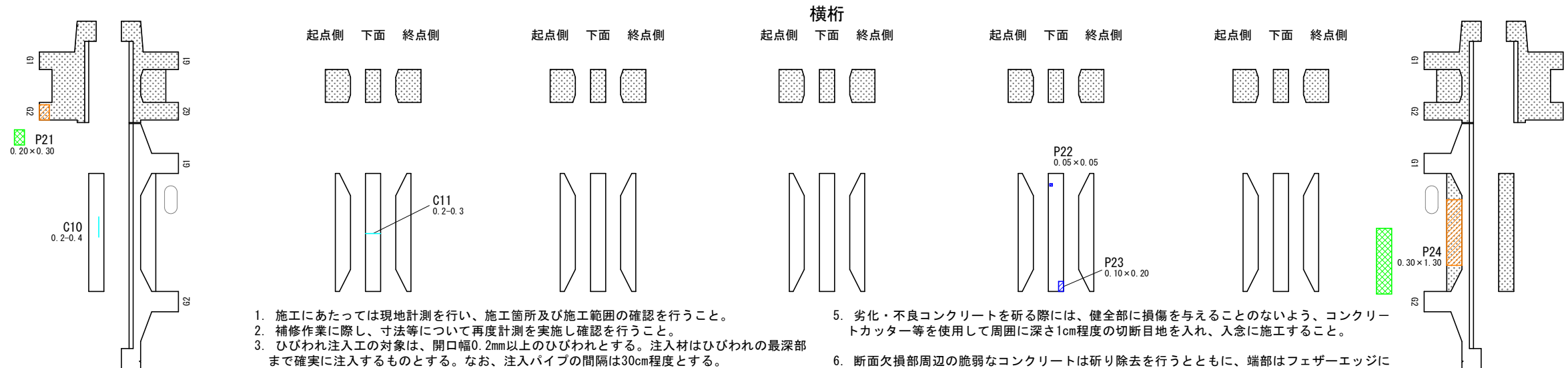
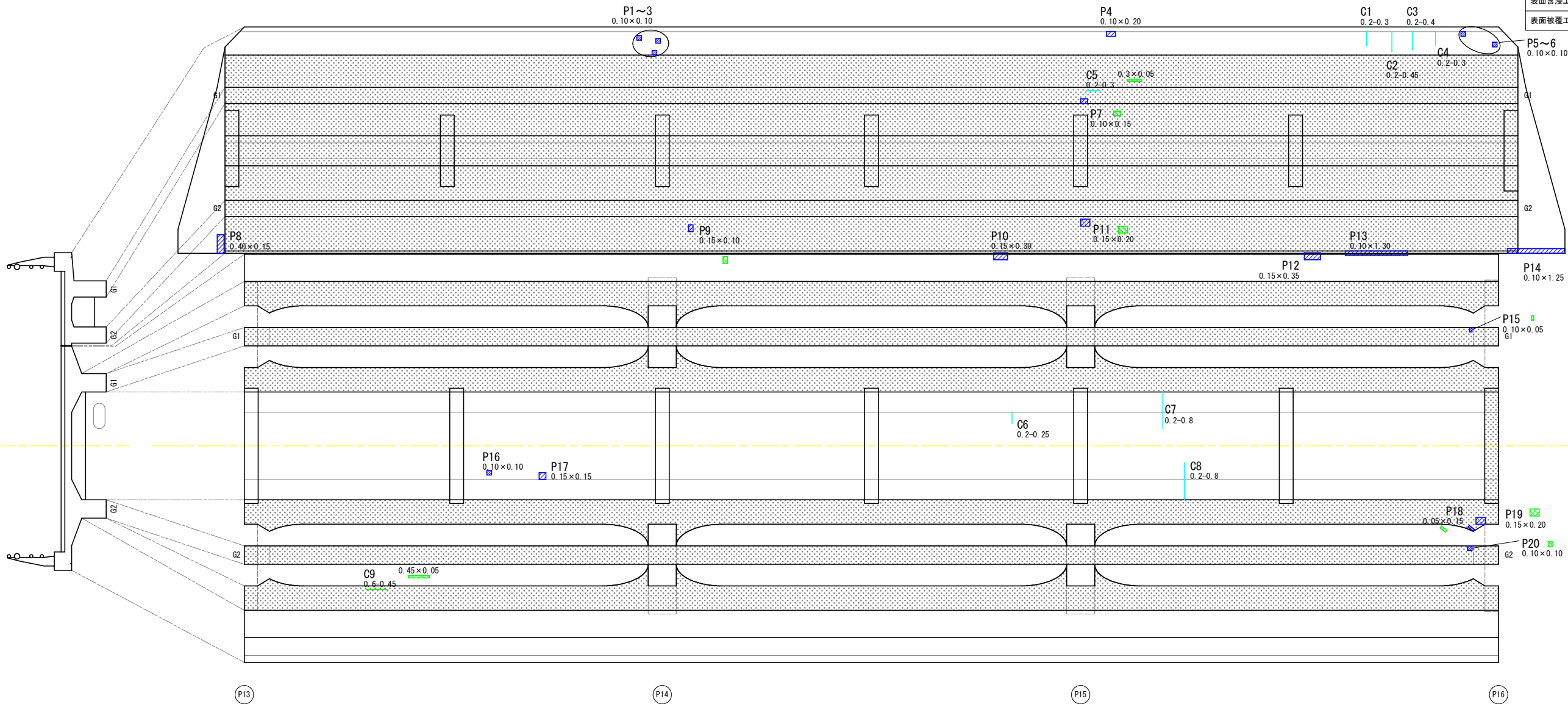
海部川橋 上部工補修図(その13)

S=1:50

桁下P13-P16

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	



1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。

3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。

4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断路地を入れ、入念に施工すること。

6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。

7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線 (海部川橋)		
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事		
工事箇所	(一) 四方原海部線		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その13)		
縮 尺	1/50	図面番号	15 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部(美波)		

海部川橋 上部工補修図(その14)

桁下P13-P16数量表

桁下P13-P16

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.30
C2	0.45
C3	0.40
C4	0.30
C5	0.30
C6	0.25
C7	0.80
C8	0.80
C9	0.45
C10	0.40
C11	0.30
計	4.75 m

表面含浸工

合計 0.04m2

断面修復工

測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P1	0.10	× 0.10	0.010
P2	0.10	× 0.10	0.010
P3	0.10	× 0.10	0.010
P4	0.10	× 0.20	0.020
P5	0.10	× 0.10	0.010
P6	0.10	× 0.10	0.010
P7	0.10	× 0.15	0.015
P8	0.40	× 0.15	0.060
P9	0.15	× 0.10	0.015
P10	0.15	× 0.30	0.045
P11	0.15	× 0.20	0.030
P12	0.15	× 0.35	0.053
P13	0.10	× 1.30	0.130
P14	0.10	× 1.25	0.125
P15	0.10	× 0.05	0.005
P16	0.10	× 0.10	0.010
P17	0.15	× 0.15	0.023
P18	0.05	× 0.15	0.008
P19	0.15	× 0.20	0.030
P20	0.10	× 0.10	0.010
P22	0.05	× 0.05	0.003
P23	0.10	× 0.20	0.020
合計			0.652 m2

既設被覆材除去

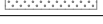
測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P21	0.20	× 0.30	0.060
P24	0.30	× 1.30	0.390
合計			0.450 m2

表面含浸工

合計 0.56m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅 (mm)×長さ (m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	 幅 (mm)×長さ (m)
ひびわれ充填工	 幅 (mm)×長さ (m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	

当初設計図面

工 事 名	R 7 波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その14)		
縮 尺	—	図面番号	16 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部〈美波〉		

海部川橋 上部工補修図(その15)

S=1:50

桁下P16-P19

凡 例

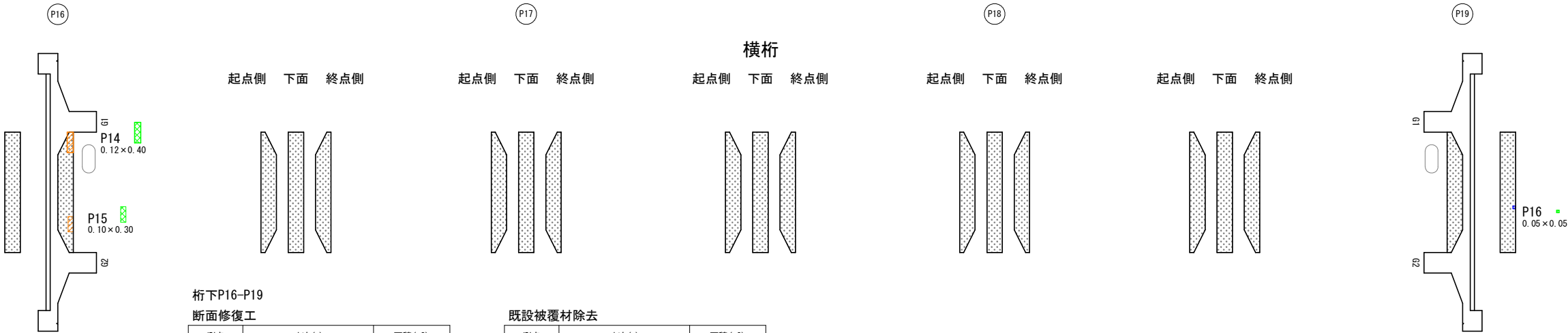
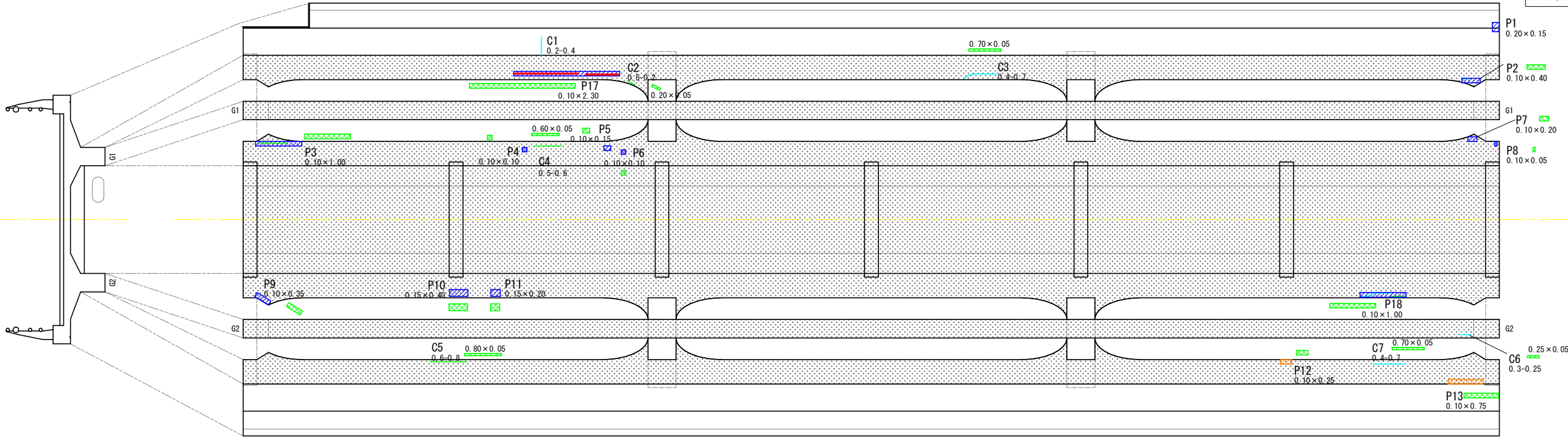
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)×長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)×長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)×長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.40
C2	0.20
C3	0.70
C4	0.60
C5	0.80
C6	0.25
C7	0.70
計	3.65 m

表面含浸工

合計 0.16m2



桁下P16-P19

断面修復工

測点	寸法 (m)			面積 (m2)
P1	0.20	×	0.15	0.030
P2	0.10	×	0.40	0.040
P3	0.10	×	1.00	0.100
P4	0.10	×	0.10	0.010
P5	0.10	×	0.15	0.015
P6	0.10	×	0.10	0.010
P7	0.10	×	0.20	0.020
P8	0.10	×	0.05	0.005
P9	0.10	×	0.35	0.035
P10	0.15	×	0.40	0.060
P11	0.15	×	0.20	0.030
P16	0.05	×	0.05	0.003
P17	0.10	×	2.30	0.230
P18	0.10	×	1.00	0.100
合計				0.688 m2

既設被覆材除去

測点	寸法 (m)			面積 (m2)
P12	0.10	×	0.25	0.025
P13	0.10	×	0.75	0.075
P14	0.15	×	0.40	0.060
P15	0.10	×	0.30	0.030
合計				0.190 m2

表面含浸工

合計 0.85m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除きを行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

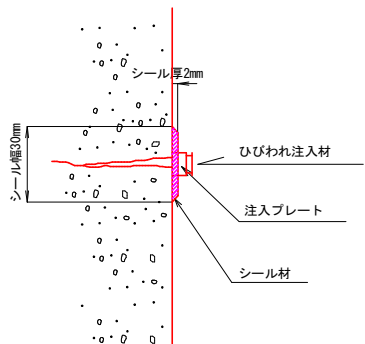
当初設計図面

工事名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図面名	海部川橋 上部工補修図(その15)		
縮尺	1/50	図面番号	17 / 36
会社名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部〈美波〉		

海部川橋 補修標準図

ひびわれ注入工

(国土交通省土木補修用エポキシ樹脂注入材3種 適合品)



注) ひびわれ注入は幅0.2mm以上を行うこととし、補修工事の際は設計図と現地状況を確認の上、変化がある場合について協議を行うこと

※ 施工手順

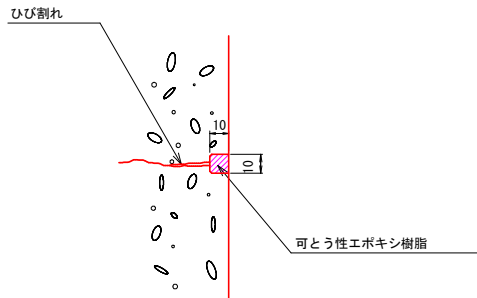
- 1 表面処理
- 2 注入プレート貼付
- 3 シール材塗布
- 4 注 入
- 5 養 生
- 6 仕上げ

※ 注

1. 注入対象となるひびわれは、ひびわれ幅0.2mm以上のもとする。
2. ひびわれ注入深さは、0.05mを想定しているが、ひびわれの最深部まで確実に注入すること。
3. 注入パイプの間隔は、30cm程度とする。

ひびわれ充填工

(可とう性エポキシ樹脂)



注) ひびわれ充填は幅1.0mm以上を行うこととし、施工前に再調査し、施工箇所を決定すること。

※ 施工手順

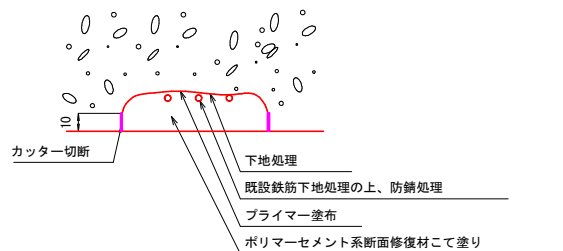
- 1 ひび割れ部のU字カット
- 2 清掃
- 3 プライマー塗布
- (4 バックアップ材挿入)
- 5 充填材を充填
- 6 養 生

※ 注

1. 充填対象となるひびわれは、ひびわれ幅1.0mm以上のもとする。
2. ひび割れに沿って約10mmの幅で、円錐状のダイヤモンドビット等により、U字形にカットする。

断面修復工

(ポリマーセメントモルタル)



※ 施工手順

- 1 カッター切断
- 2 コンクリートはつり
- 3 下地処理
- 4 鉄筋防錆処理
- 5 プライマー塗布
- 6 断面修復材にて塗り

※ 注

1. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1cm程度コンクリートカッターにより切断目地を入れ、入念に施工する。(はつり深さは、上部工5cm、下部工10cmを想定している。)

2. 使用材料

断面修復材

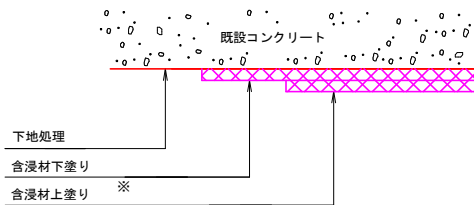
無収縮ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案) [工法別マニュアル編] 平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

力 学 的 性 能	
要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同等な強度特性を有すること 設計基準強度以上
	プレストレストコンクリート 50N/mm2
	鉄筋コンクリート 24N/mm2
	無筋コンクリート 18N/mm2
付着強度	躯体コンクリートと一体となること (1.0N/mm2以上)

3. 塗り重ねについては一層あたり30mmを目安とする。

表面含浸工

(シラン系)



※ 施工手順

- 1 下地処理および清掃工
(コンクリート表面の汚れや、油脂等を除去。
施工する面は乾燥面とし、湿潤状態の場合はブロワー等で強制乾燥させる。)
- 2 下塗り：含浸材下塗
- 3 上塗り：含浸材上塗
(※ 1回目の塗布後、塗膜が完全に乾燥したのを確認して、2回目を塗布。
乾燥時間の目安：夏季 約1時間、冬季 約2時間)
- 4 養生
(施工後、雨水等が当たる箇所は、塗膜乾燥前に雨水等が当たらないようにシート等で養生。)

※ 注

1. (社)土木学会 コンクリートライブラリー表面保護工法 設計施工指針(案) (第5章 施工P38～)に準拠する。

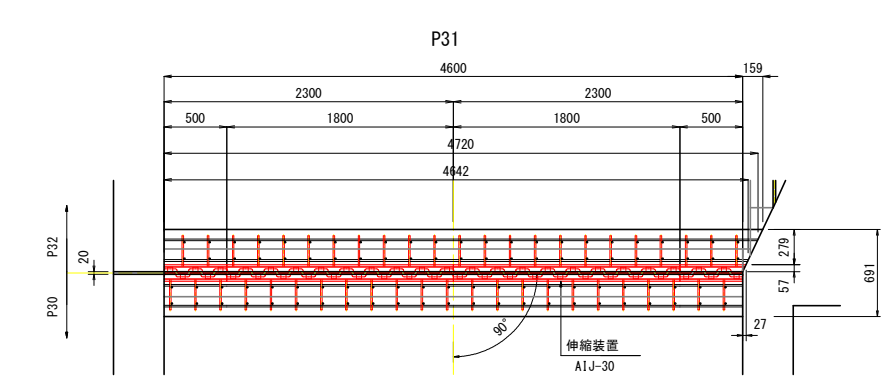
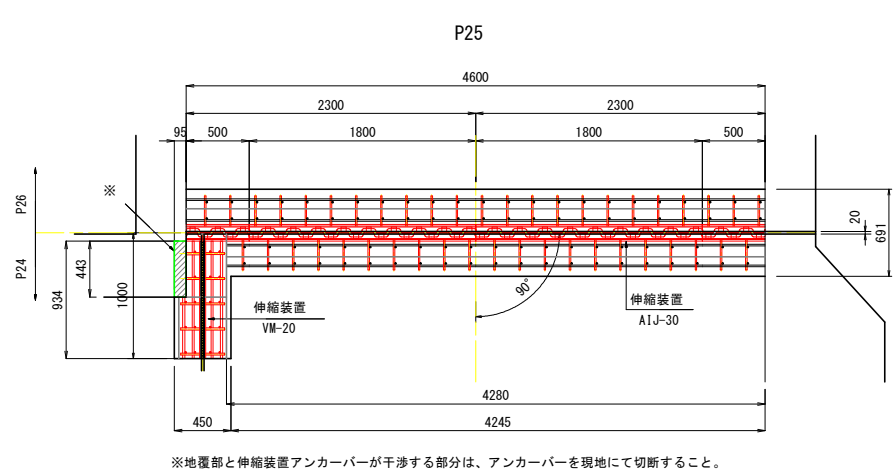
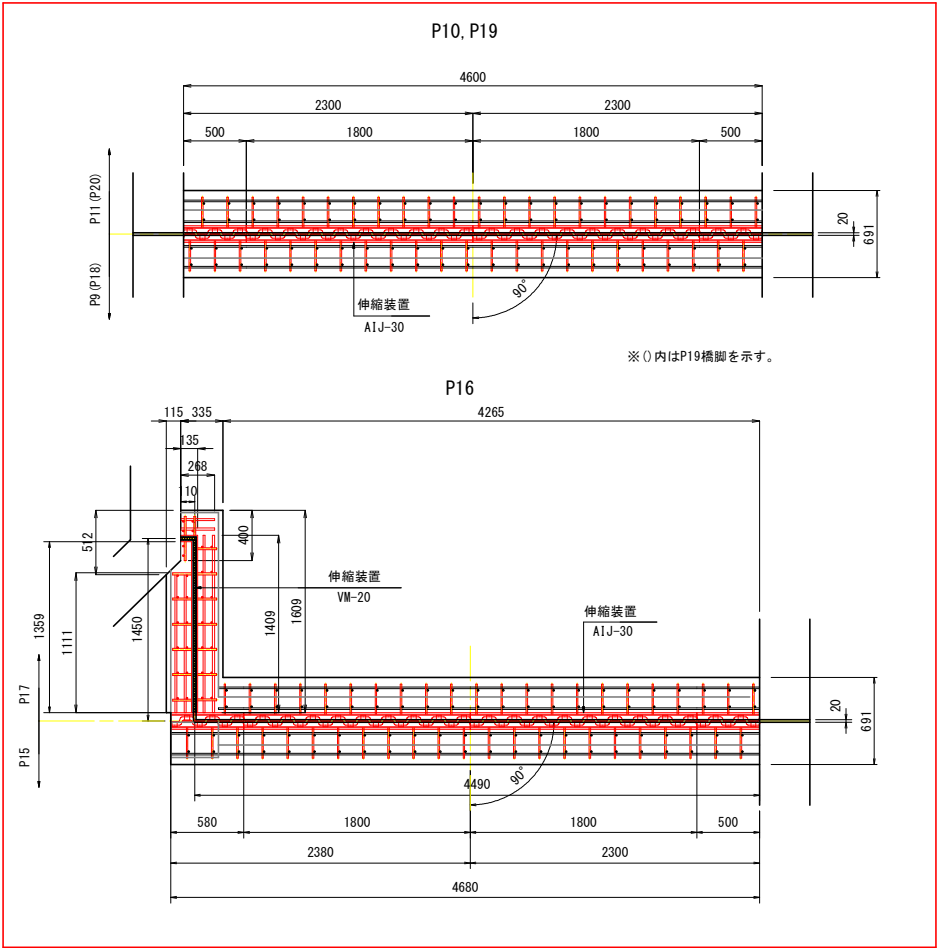
当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 補修標準図		
縮 尺	—	図面番号	18 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(1)

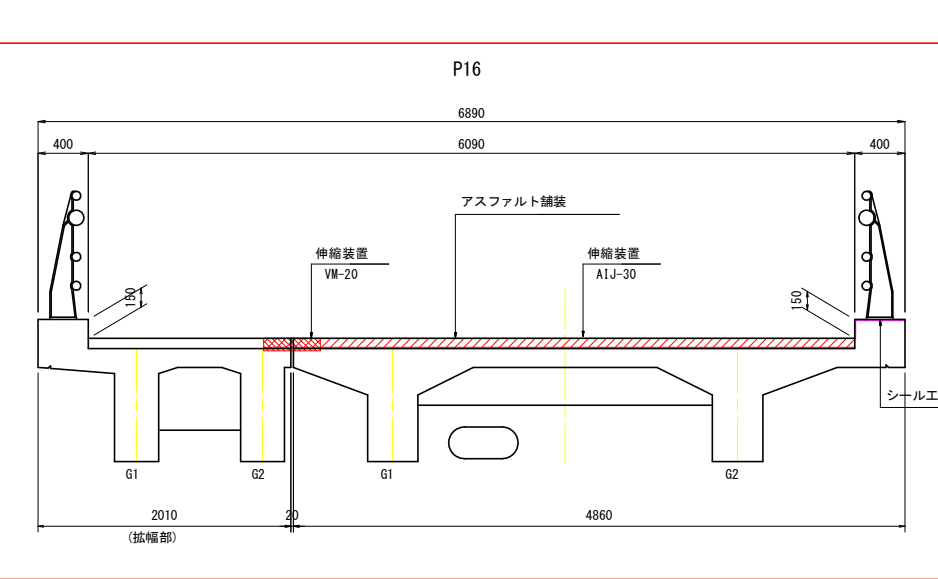
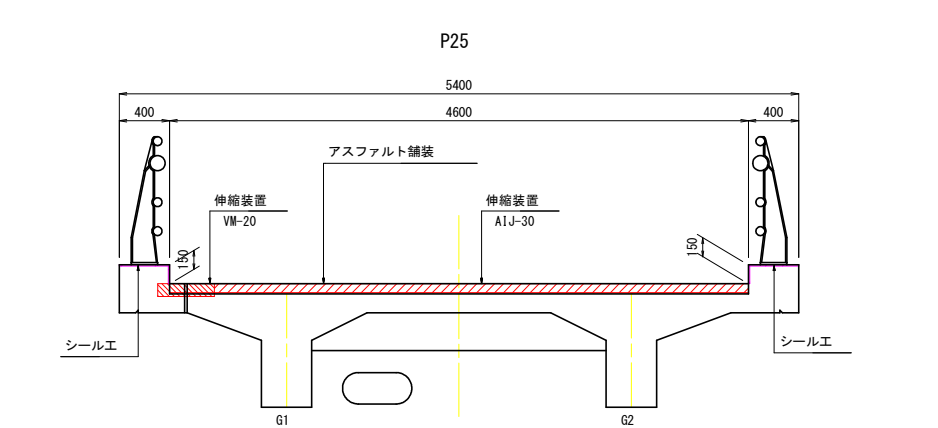
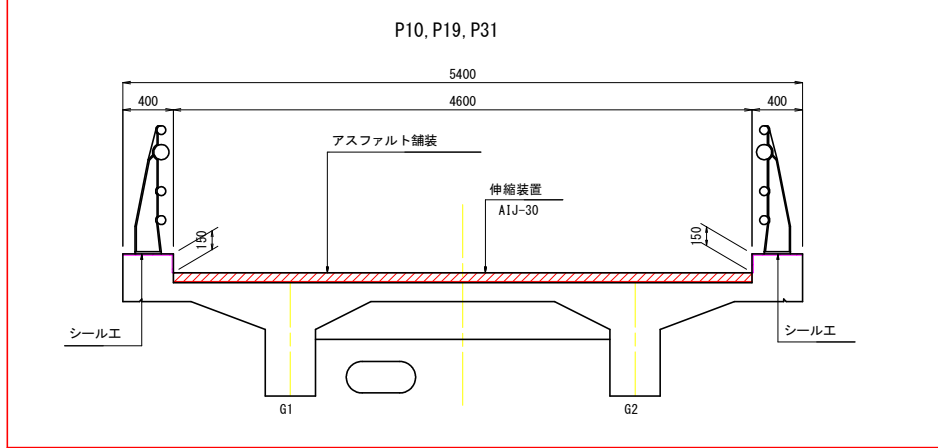
平面図

S=1:30



断面図

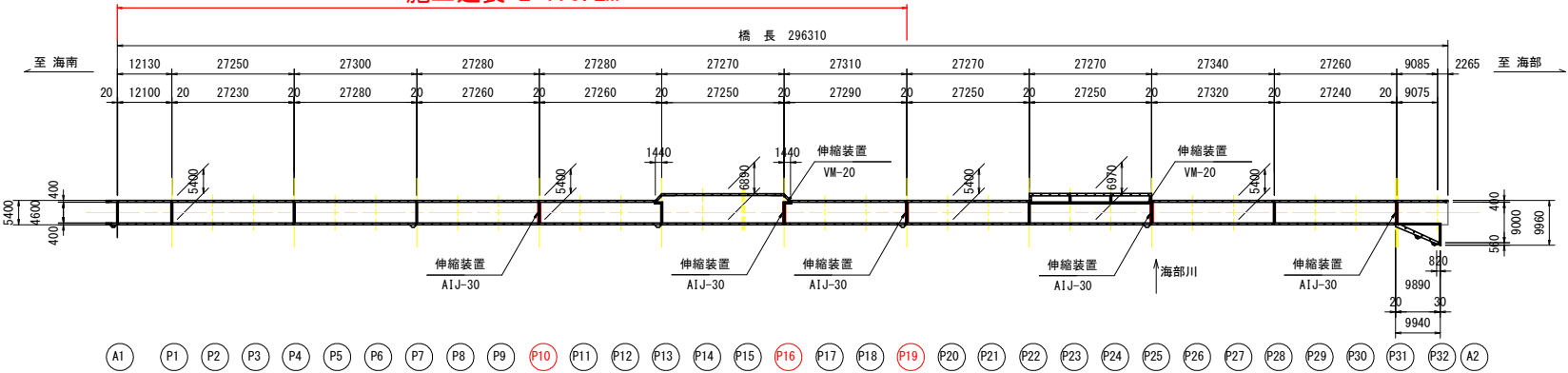
S=1:30



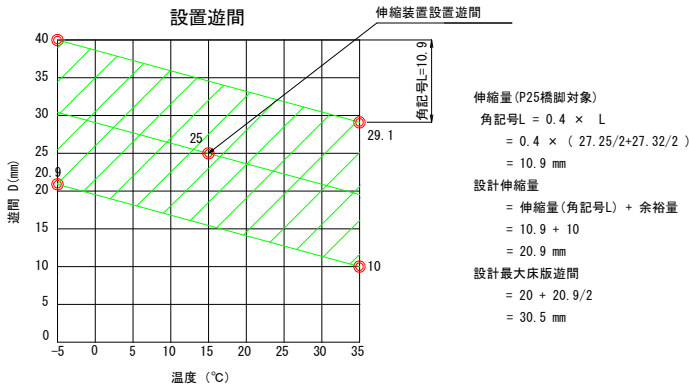
施工延長 L=176.2m

位置図

S=1:800



設計条件						
温度範囲	-5° C ~ +35° C					
施工位置	P10	P16	P19	P25	P31	
支承条件	Mov-Mov	Mov-Mov	Mov-Mov	Mov-Mov	Mov-Mov	
設計伸縮量	20.9mm	20.9mm	20.9mm	20.9mm	19.1mm	
最大床版遊間	30mm	30mm	30mm	30mm	30mm	



注記) 設置延長等の寸法は現地計測の上、決定すること。

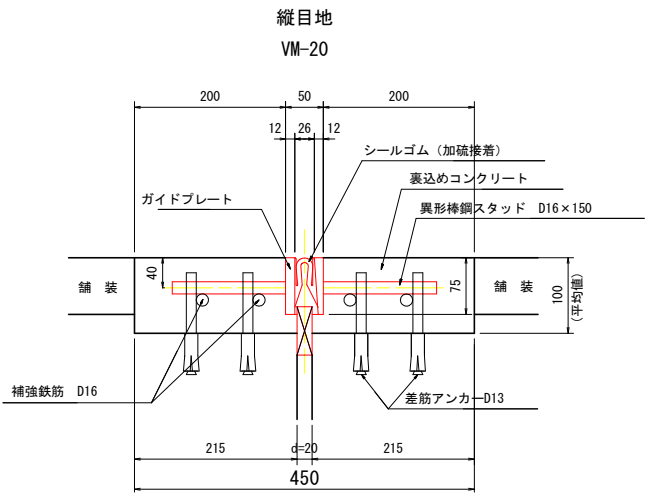
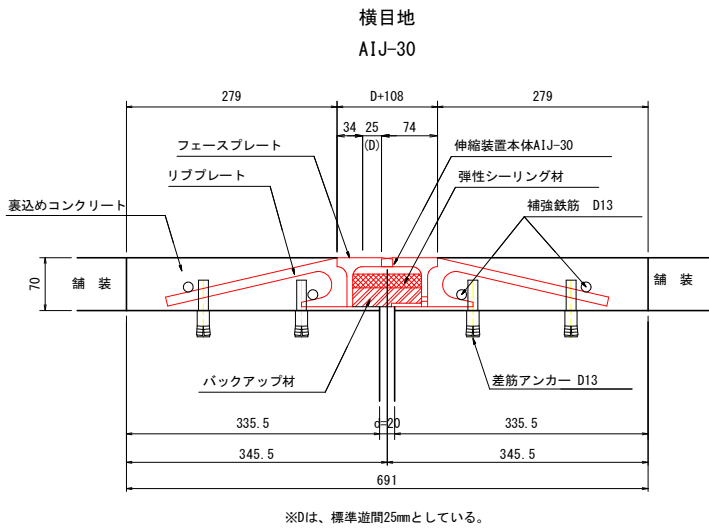
当初設計図面

工事名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図面名	海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(1)		
縮尺	図示	図面番号	19 / 36
会社名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(2)

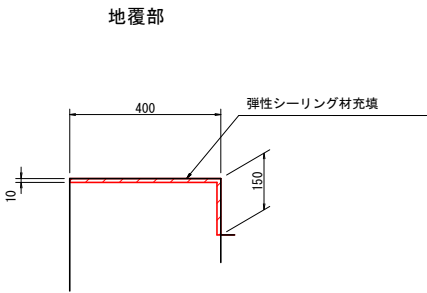
伸縮装置補修断面図

S=1:5



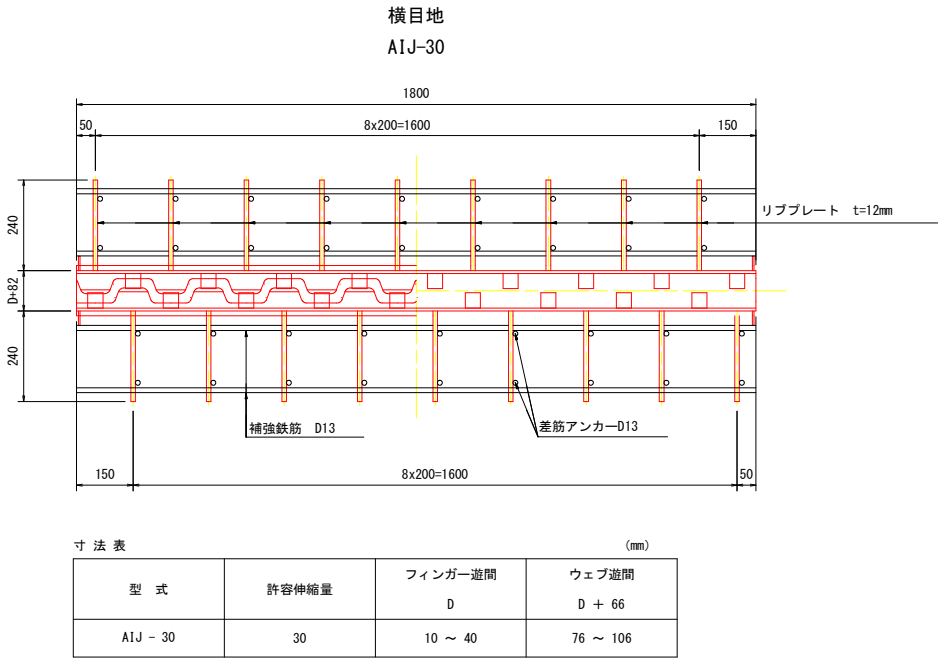
シール工詳細図

S=1:10

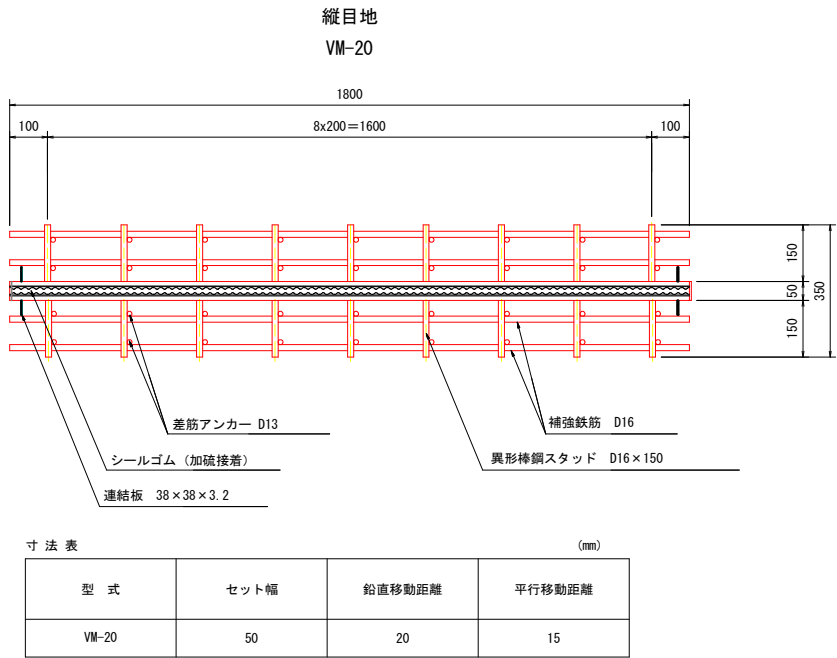


伸縮装置平面図

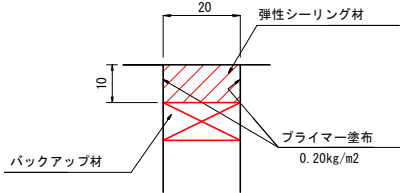
S=1:10



※ 設置遊間は施工時の温度を考慮して決定すること。



シール材充填図



当初設計図面

工 事 名	R 7 波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(2)		
縮 尺	図示	図面番号	20 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部〈美波〉		

海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(3)

伸縮装置取替数量表

伸縮装置取替数量表

数 量 表									
番号	名称	規格・材質	単位	P10	P16		P19	合計	備 考
					横目地	縦目地			
1	車道用伸縮装置	AIJ-30	m	4.60	4.68	－	4.60	13.88	
		VM-20	m	－	－	1.49	－	1.49	
2	裏込めコンクリート	超速硬コンクリート(σ3h=24N/mm2)	m3	0.18	0.17	0.06	0.18	0.59	
3	補強鉄筋	D13 SD345	kg	18	18	－	18	54	L x 4 x 0.995kg/m
		D16 SD345	kg	－	－	9	－	9	L x 4 x 1.56kg/m
4	差筋アンカー	D13	本	92	90	32	92	306	
5	シーリング材	シリコーン系	リットル	0.22	0.11		0.22	0.55	P10, 19, 25, 31: (0.400+0.150) x2x0.02x0.01x1000 P16: (0.400+0.150) x0.02x0.01x1000

伸縮装置取替数量表

数 量 表									
番号	名称	規格・材質	単位	P10	P16		P19	合計	備 考
					横目地	縦目地			
1	車道用伸縮装置	AIJ-30	m	1	2	3	4		
		VM-20	m	8	9	10	11		
2	裏込めコンクリート	超速硬コンクリート(σ3h=24N/mm2)	m3	15	16	17	18		
3	補強鉄筋	D13 SD345	kg	22	23	24	25		L x 4 x 0.995kg/m
		D16 SD345	kg	29	30	31	32		L x 4 x 1.56kg/m
4	差筋アンカー	D13	本	36	37	38	39		
5	シーリング材	シリコーン系	リットル	43	44		45		

計算式

1	:	AIJ-30	4.60m
2	:	AIJ-30	4.68m
3	:	－	
4	:	AIJ-30	4.60m
8	:	－	
9	:	－	
10	:	VM-20	1.359+0.135=1.49m
11	:	－	
15	:	0.279x0.07x2x4.60	
16	:	0.279x0.07x4.68+0.279x0.07x4.265	
17	:	0.20x0.10x2x1.61-[(0.400+0.512) x0.115x0.10x1/2]	
18	:	0.279x0.07x2x4.60	
22	:	4.60x4x0.995	
23	:	(4.68x2+4.265x2) x0.995	
24	:	－	
25	:	4.60x4x0.995	
29	:	－	
30	:	－	
31	:	(1.11x2+1.41x2+0.27x2) x1.56	
32	:	－	
36	:	CAD図より	
37	:	CAD図より	
38	:	CAD図より	
39	:	CAD図より	
43	:	(0.400+0.150) x2x0.02x0.01x1000	
44	:	(0.400+0.150) x0.02x0.01x1000	
45	:	(0.400+0.150) x2x0.02x0.01x1000	

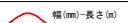
当初設計図面

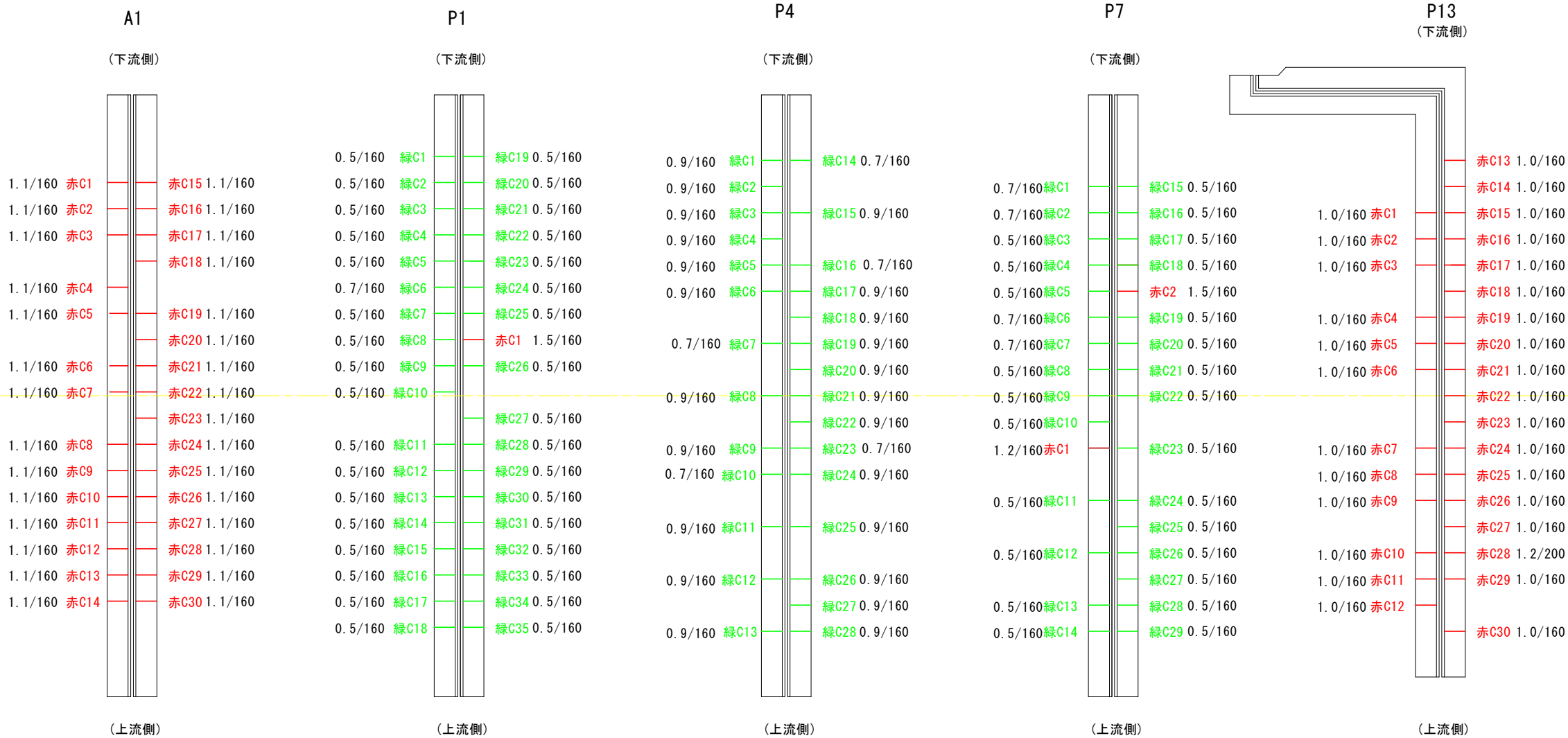
工 事 名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(3)		
縮 尺	図示	図面番号	21 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部〈美波〉		

海部川橋 上部工 既設伸縮装置 後打ち材補修工(1)

S=1 : 20

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅(mm)-長さ(m)
" (幅0.5~1.0未満)	 幅(mm)-長さ(m)
" (幅1.0以上)	 幅(mm)-長さ(m)

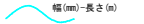
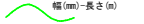
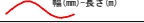


当初設計図面

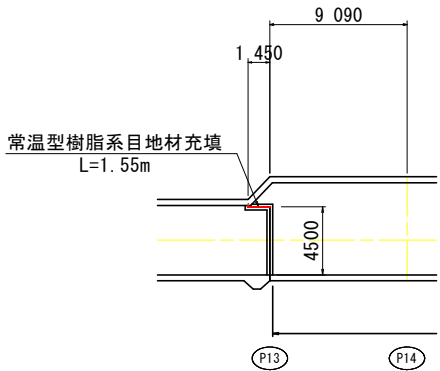
工 事 名	R 7 波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋上部工既設伸縮装置後打ち材補修工(1)		
縮 尺	1/20	図面番号	22 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 上部工 既設伸縮装置 後打ち材補修工(2)

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	 幅(mm)・長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	 幅(mm)・長さ(m)
〃 (幅1.0以上)	 幅(mm)・長さ(m)

既設伸縮縦目地補修工 S=1:250



既設伸縮縦目地補修工 数量一覧表

既設伸縮縦目地補修工延長	1.55m(P13)	1.55m
既設目地材撤去・表面处理(清掃)	1.55×0.02	0.03m ²
常温型樹脂系目地材充填 (ソフトカートリッジ使用)	1.55×0.02	0.03m ²
同上プライマー塗布	0.03×0.10×1.04	0.003kg
充填材(樹脂系目地材 イソシールAC同等品以上)	1.55×0.02×0.02×1000×1.2	0.72kg

既設伸縮装置 後打ち材ひびわれ補修工(樹脂系充填材注入) 数量一覧表

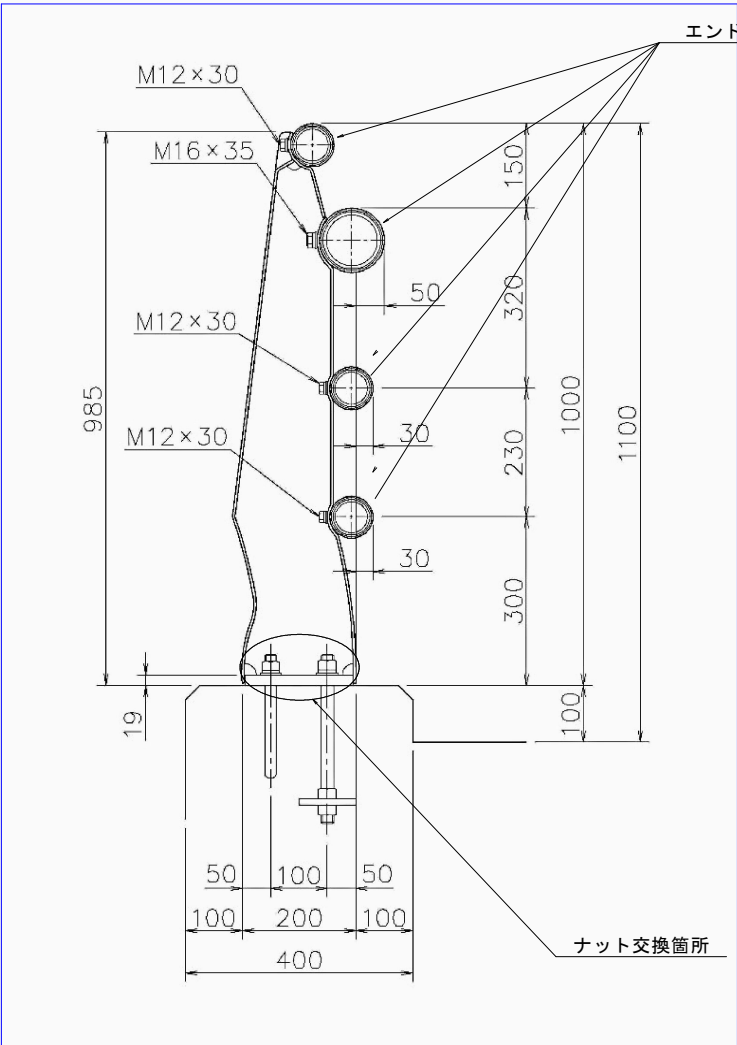
測点	ひびわれ番号	本数	ひびわれ幅(W)	算 式	数量(m)
A1	赤C1～赤C30	30本	1.1mm	0.16*30	4.80
P1	赤C1 緑C1～C35	36本	0.5～1.5mm	0.16*36	5.76
P4	緑C1～緑C28	28本	0.7～0.9mm	0.16*28	4.48
P7	赤C1～赤C2 緑C1～C29	31本	0.5～1.5mm	0.16*31	4.96
P13	赤C1～赤C30	30本	1.0～1.2mm	0.20*1+0.16*29	4.84
				合 計	24.84

当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋上部工既設伸縮装置後打ち材補修工(2)		
縮 尺	図示	図面番号	23 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 上部工 付帯工（その1）

橋梁用防護柵 欠損部材補充工
（高欄兼用車両用防護柵）



エンドキャップ・ナット補充工			
種 別	測 点	(寸法) (mm)	単 位
エンドキャップ 補充箇所	13径間	1段目 (φ 76.3)	—
		2段目 (φ 114.3)	1
		3段目 (φ 76.3)	—
		4段目 (φ 76.3)	—
	17径間	1段目 (φ 76.3)	2
		2段目 (φ 114.3)	1
		3段目 (φ 76.3)	—
		4段目 (φ 76.3)	—
	23径間	1段目 (φ 76.3)	1
		2段目 (φ 114.3)	—
		3段目 (φ 76.3)	1
		4段目 (φ 76.3)	1
	25径間	1段目 (φ 76.3)	1
		2段目 (φ 114.3)	1
		3段目 (φ 76.3)	—
		4段目 (φ 76.3)	—
	32径間	1段目 (φ 76.3)	
		2段目 (φ 114.3)	1
		3段目 (φ 76.3)	1
		4段目 (φ 76.3)	1
合 計		(φ 76.3)	8 個
合 計		(φ 114.3)	4 個
種 別	測 点	寸 法	単 位
ナット 交換箇所	17径間	φ 30.0	4
合 計			4 個

当初設計図面

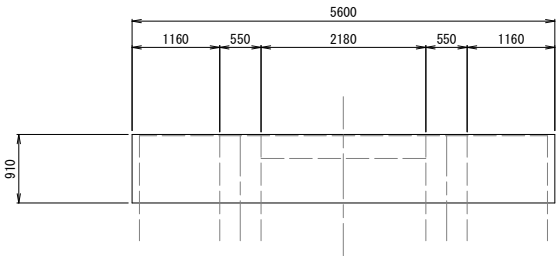
工 事 名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工 付帯工（その1）		
縮 尺	—	図面番号	24 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部〈美波〉		

海部川橋 下部工補修図(その1)

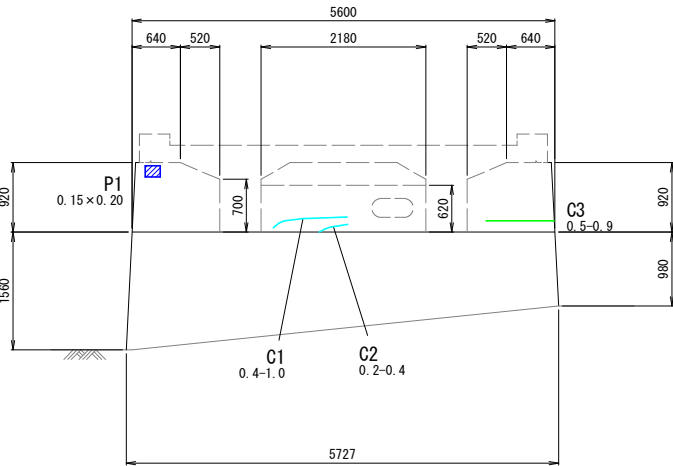
S=1:50

A1橋台

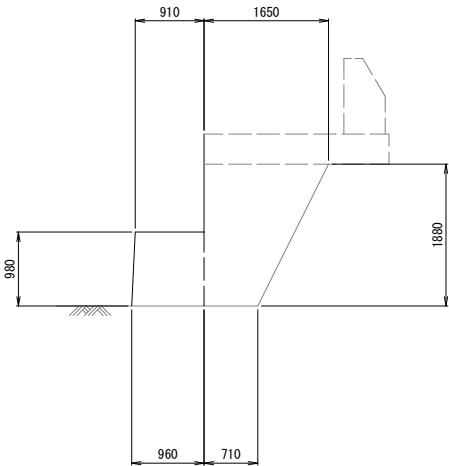
平面図



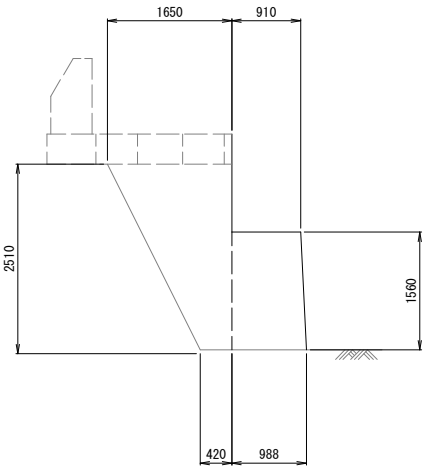
正面図



側面図(下流側)



側面図(上流側)



凡 例	
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)・長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)・長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)・長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装) 過年度施工 有無	
橋脚柱	フーチング基礎
×	—

A1橋台

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	1.00
C2	0.40
C3	0.90
計	2.30 m

断面修復工

測点	寸法(m)		面積(m2)
P1	0.15	× 0.20	0.030
合計			0.030 m2

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除きを行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

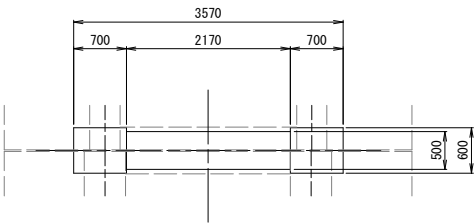
工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その1)		
縮 尺	1/50	図面番号	25 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 下部工補修図(その2)

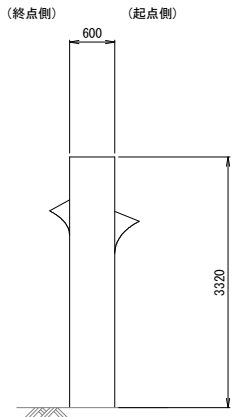
S=1:50

P1橋脚

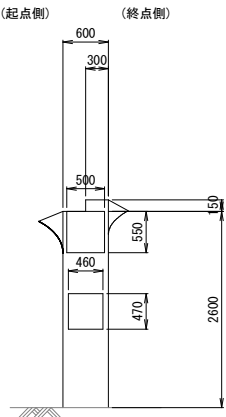
平面図(橋座)



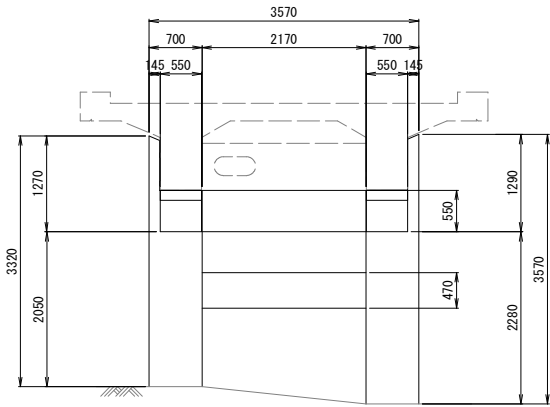
側面図(下流側)



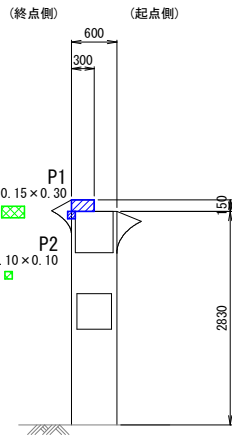
(柱内側)



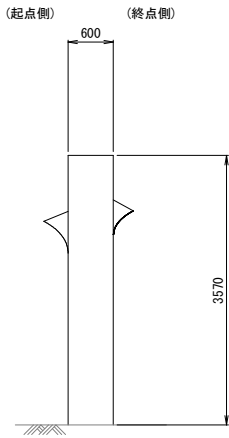
正面図(起点側)



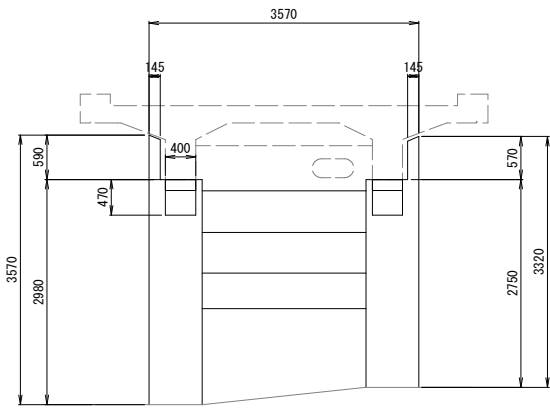
(柱内側)



側面図(上流側)



正面図(終点側)



P1橋脚

断面修復工

測点	寸法 (m)			面積 (m2)
P1	0.15	×	0.30	0.045
P2	0.10	×	0.10	0.010
合計				0.055 m2

表面含浸工

合計 0.06m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを斫る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは斫り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅 (mm) - 長さ (m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅 (mm) - 長さ (m)
ひびわれ充填工	幅 (mm) - 長さ (m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工 (表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	—

当初設計図面

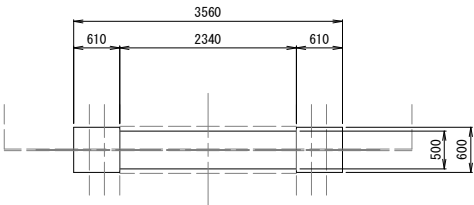
工 事 名	R7波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その2)		
縮 尺	1/50	図面番号	26 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 下部工補修図(その3)

S=1:50

P4橋脚

平面図(橋座)



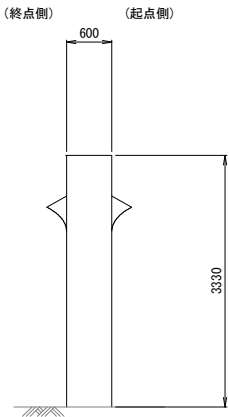
凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

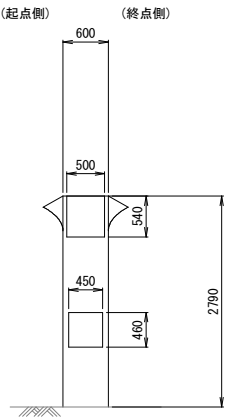
表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	—

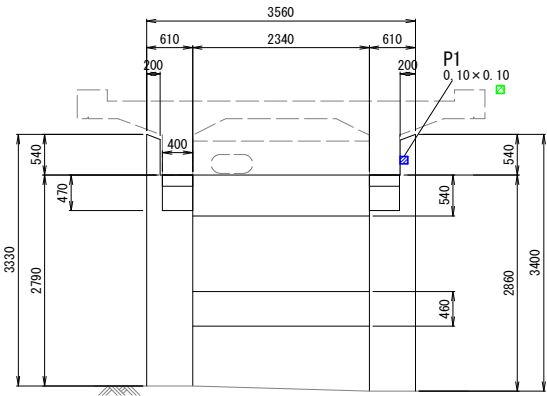
側面図(下流側)



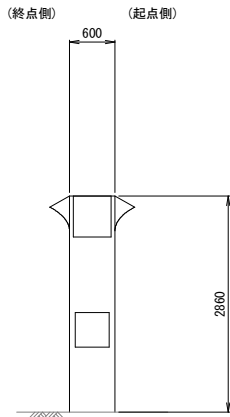
(柱内側)



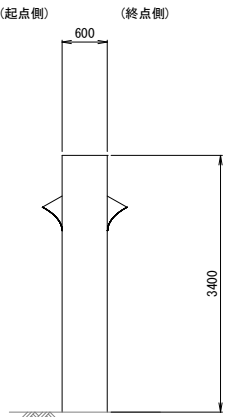
正面図(起点側)



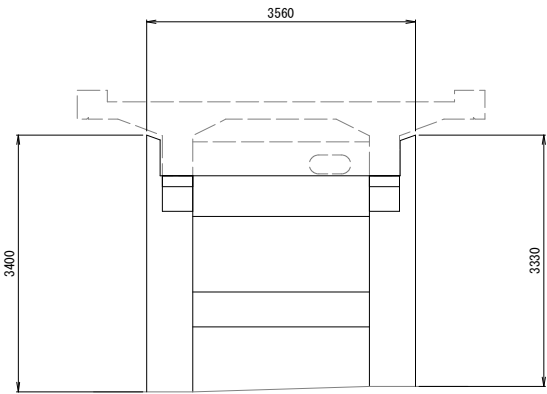
(柱内側)



側面図(上流側)



正面図(終点側)



P4橋脚

断面修復工

測点	寸法(m)		面積(m2)
P1	0.10	×	0.10
合計			0.010 m2

表面含浸工

合計 0.01m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは切り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

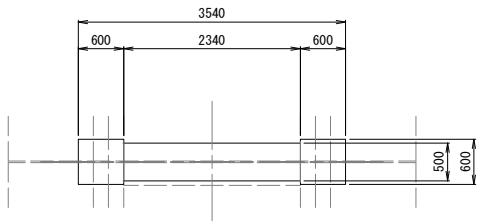
工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その3)		
縮 尺	1/50	図面番号	27 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 下部工補修図(その4)

S=1:50

P7橋脚

平面図(橋座)



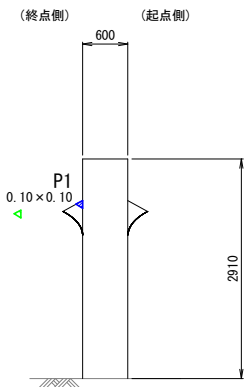
凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	 幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	 幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

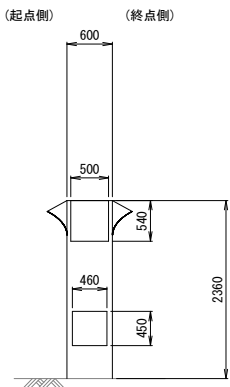
表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	—

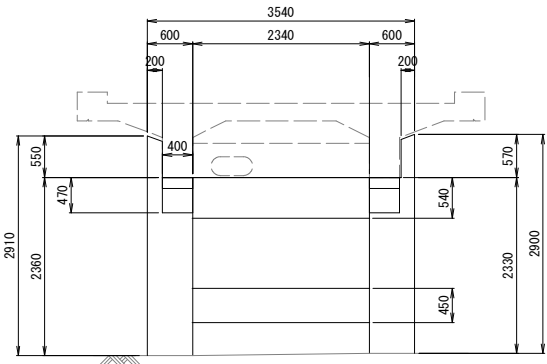
側面図(下流側)



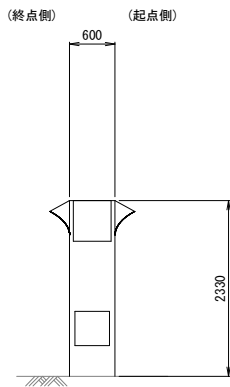
(柱内側)



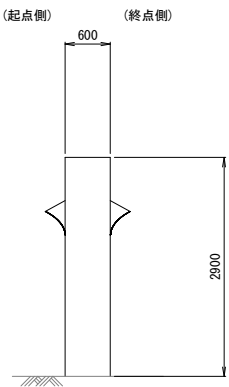
正面図(起点側)



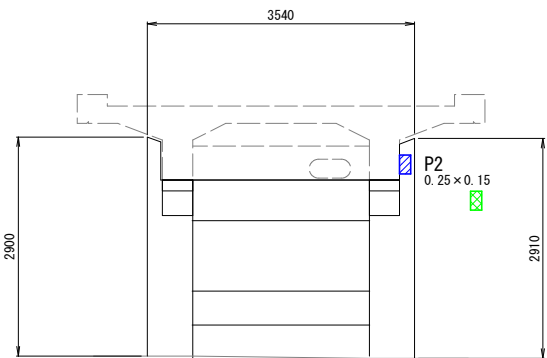
(柱内側)



側面図(上流側)



正面図(終点側)



P7橋脚

断面修復工

測点	寸法 (m)			面積 (m2)
P1	0.10	×	0.10	0.010
P2	0.25	×	0.15	0.038
合計				0.048 m2

表面含浸工

合計 0.05m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深处まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを斫る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは斫り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

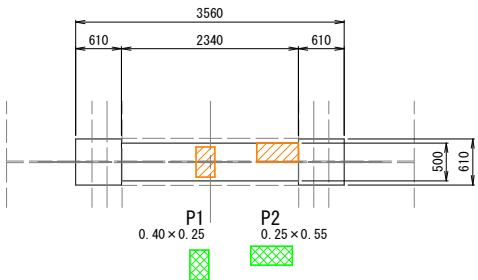
工 事 名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その4)		
縮 尺	1/50	図面番号	28 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 下部工補修図(その5)

S=1:50

P10橋脚

平面図(橋座)



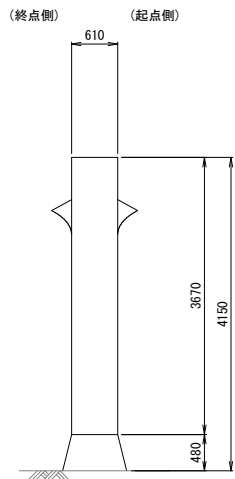
凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	 幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	 幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

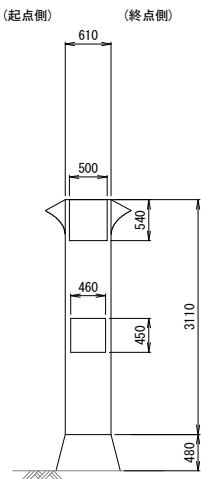
表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	—

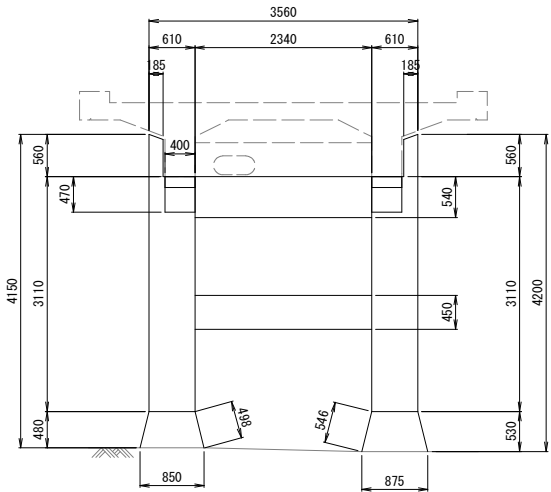
側面図(下流側)



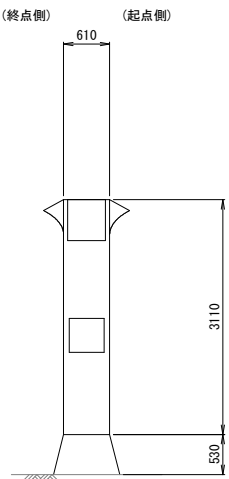
(柱内側)



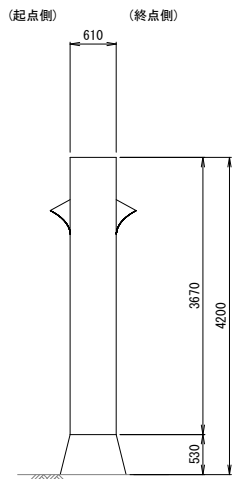
正面図(起点側)



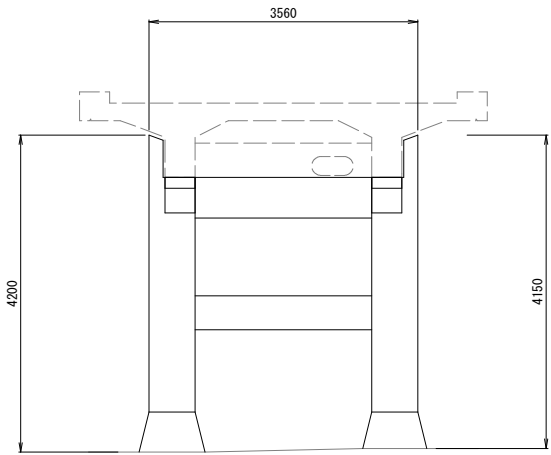
(柱内側)



側面図(上流側)



正面図(終点側)



P10橋脚

既設被覆材除去

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.40 × 0.25	0.100
P2	0.25 × 0.55	0.138
合計		0.238 m2

表面含浸工

合計 0.24m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは切り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

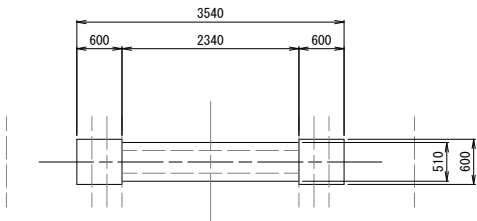
工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その5)		
縮 尺	1/50	図面番号	29 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 下部工補修図(その6)

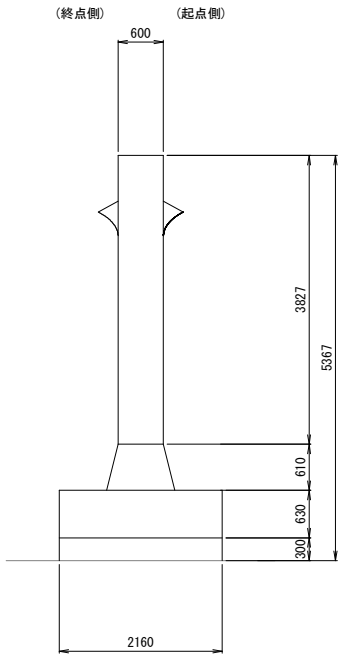
S=1:50

P12橋脚

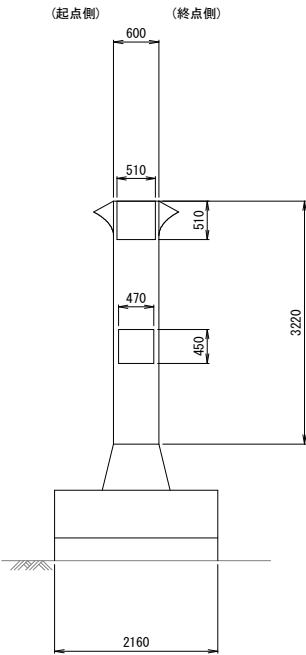
平面図(橋座)



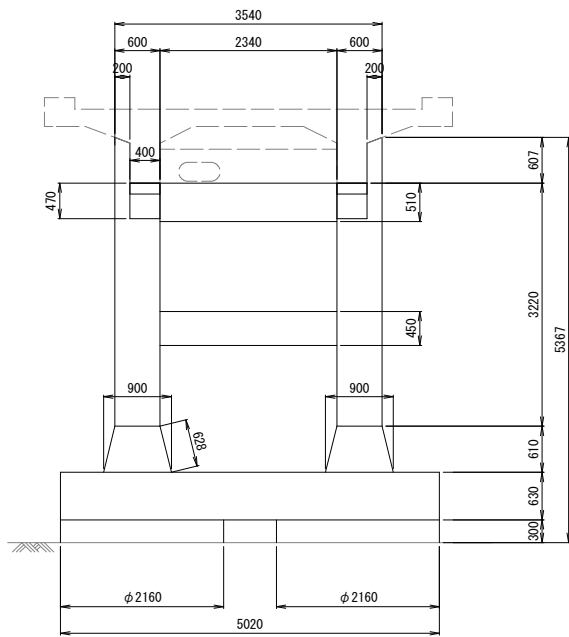
側面図(下流側)



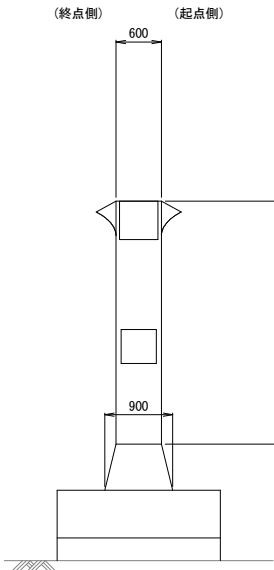
(柱内側)



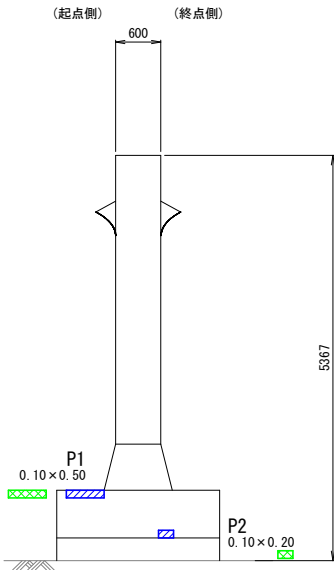
正面図(起点側)



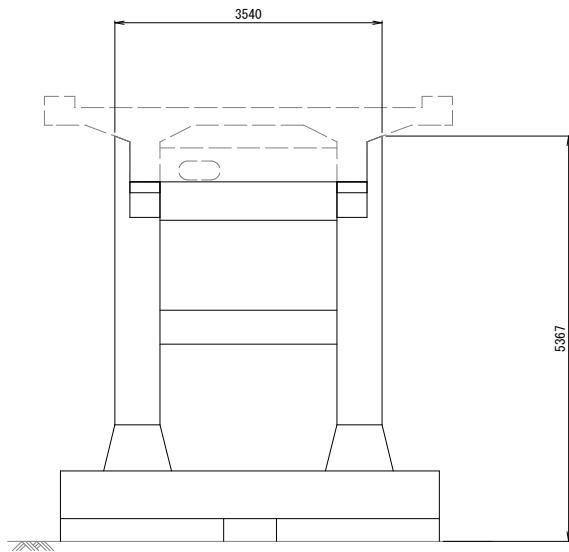
(柱内側)



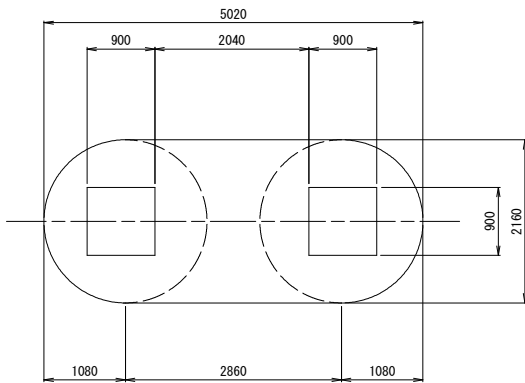
側面図(上流側)



正面図(終点側)



平面図(基礎)



1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

P12橋脚

断面修復工

測点	寸法 (m)	面積 (m2)
P1	0.10 × 0.50	0.050
P2	0.10 × 0.20	0.020
合計		0.070 m2

表面含浸工

合計 0.07m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅 (mm) - 長さ (m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅 (mm) - 長さ (m)
ひびわれ充填工	幅 (mm) - 長さ (m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工 (表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

当初設計図面

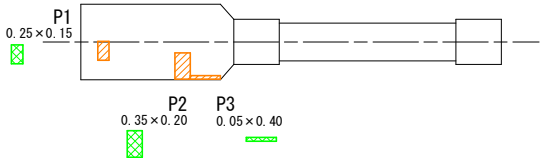
工 事 名	R7波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その6)		
縮 尺	1/50	図面番号	30 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 下部工補修図(その7)

S=1:50

P13橋脚

平面図(橋座)



凡 例

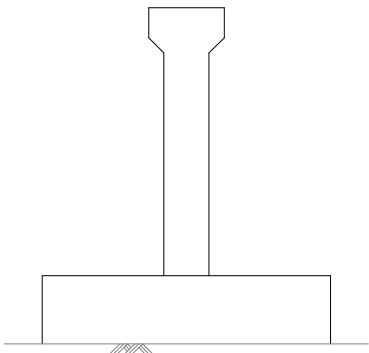
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	×

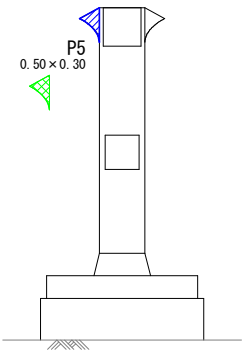
側面図(下流側)

(終点側) (起点側)

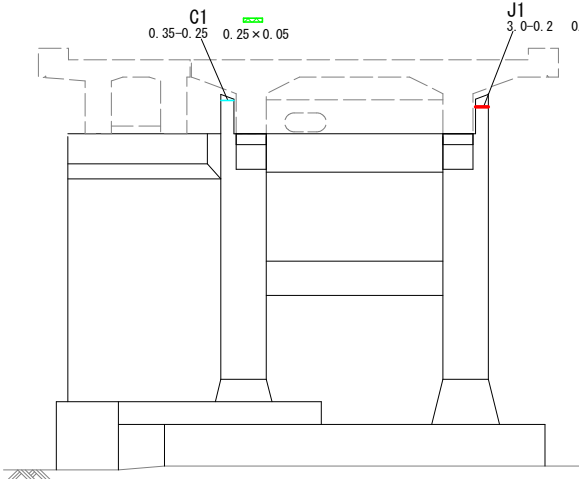


(柱内側)

(起点側) (終点側)

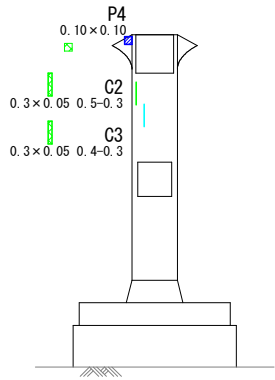


正面図(起点側)



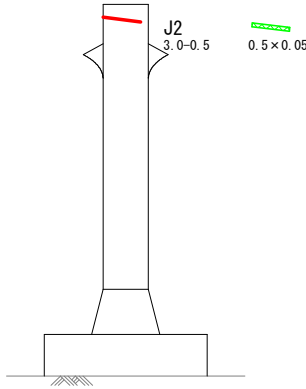
(柱内側)

(終点側) (起点側)

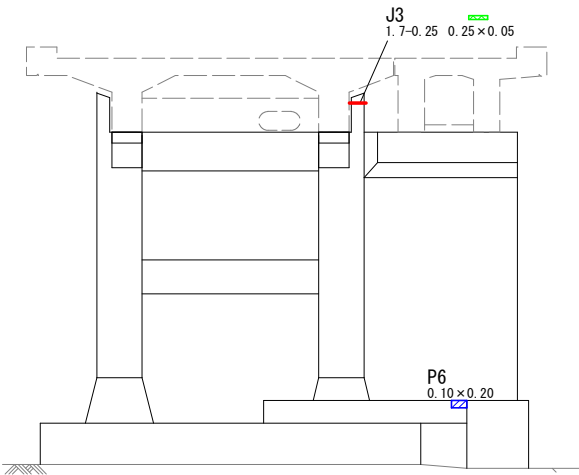


側面図(上流側)

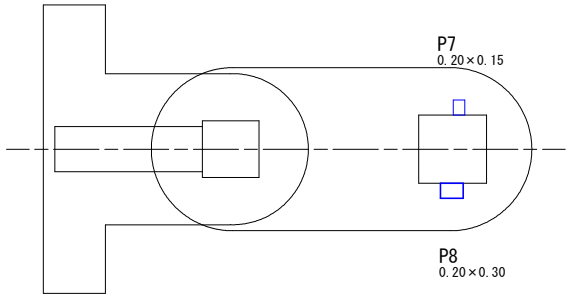
(起点側) (終点側)



正面図(終点側)



平面図(基礎)



P13橋脚

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.25
C2	0.30
C3	0.30
計	0.85 m

表面含浸工

合計 0.04m2

ひびわれ充填工

幅1.0以上	
測点	数量
J1	0.20
J2	0.50
J3	0.25
計	0.95 m

表面含浸工

合計 0.05m2

既設被覆材除去

測点	寸法(m)		面積(m2)
P1	0.25	×	0.038
P2	0.35	×	0.070
P3	0.05	×	0.020
合計			0.128 m2

断面修復工

測点	寸法(m)		面積(m2)
P4	0.10	×	0.010
P5	0.50	×	0.150
P6	0.10	×	0.020
P7	0.20	×	0.030
P8	0.20	×	0.060
合計			0.270 m2

表面含浸工 ※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

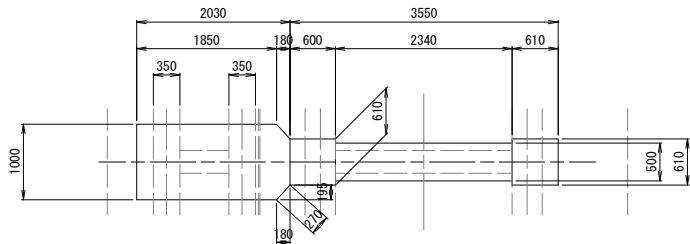
当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その7)		
縮 尺	1/50	図面番号	31 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

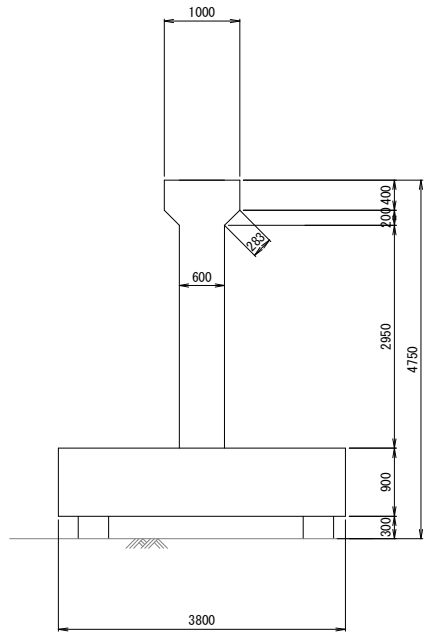
1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

S=1 : 50

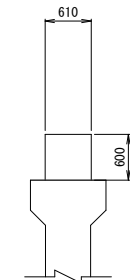
平面図(橋座)



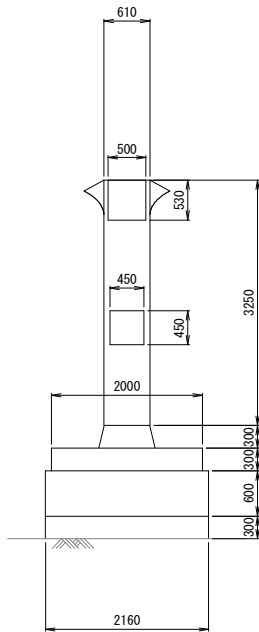
(終点側) (起点側)



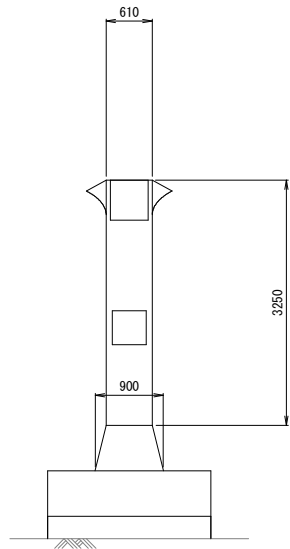
(終点側) (起点側)



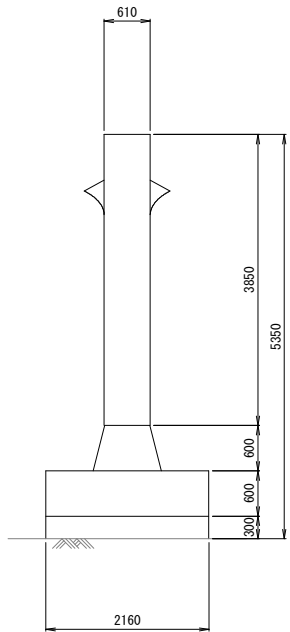
(起点側) (終点側)

[illegible]

(終点側) (起点側)



(起点側) (終点側)



Technical drawing of a two-story building facade. The drawing includes the following dimensions:

- Overall width: 3550
- Overall height: 5350
- Top section width (left): 610
- Top section width (middle): 2340
- Top section width (right): 600
- Right section width: 2030
- Right section height: 3550
- Bottom section height: 900

The drawing shows a symmetrical facade with a central entrance area and two side wings. The top section features a series of horizontal lines, possibly representing a roof or a decorative element. The right section shows a vertical structure, possibly a chimney or a tower. The bottom section shows a series of horizontal lines, possibly representing a base or a foundation.

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

P14橋脚

断面修復工

測点	寸法 (m)	面積 (m2)
P1	0.20 × 0.20	0.040
P2	0.20 × 0.40	0.080
合計		0.120 m2

当初設計図面

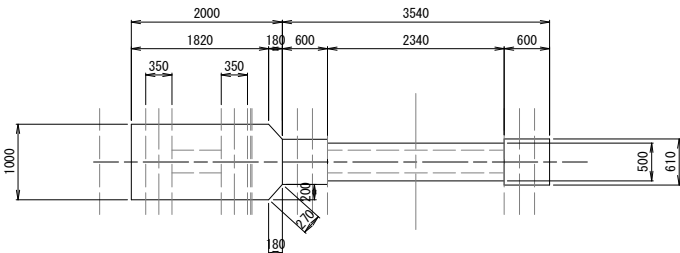
工 事 名	R 7 波 土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図（その8）		
縮 尺	1/50	図面番号	32 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南総合企画県民局 県土整備部（美波）		

海部川橋 下部工補修図(その9)

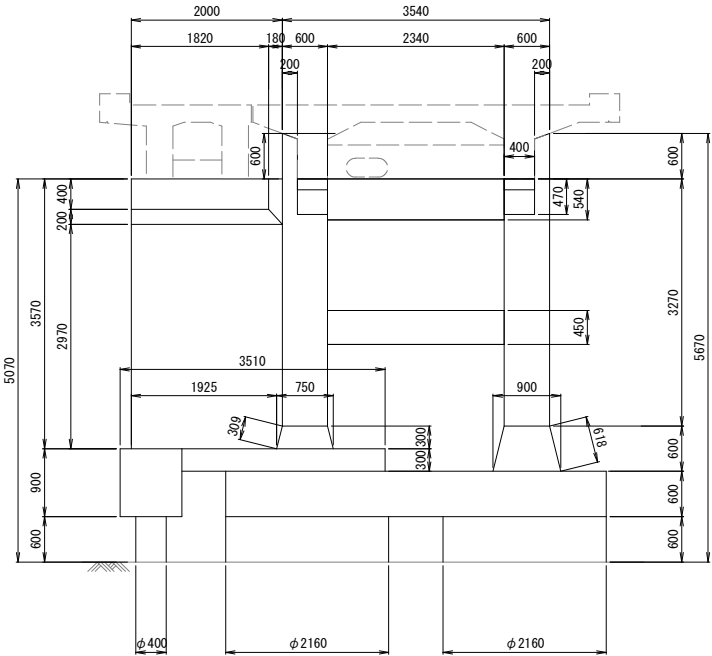
S=1:50

P15橋脚

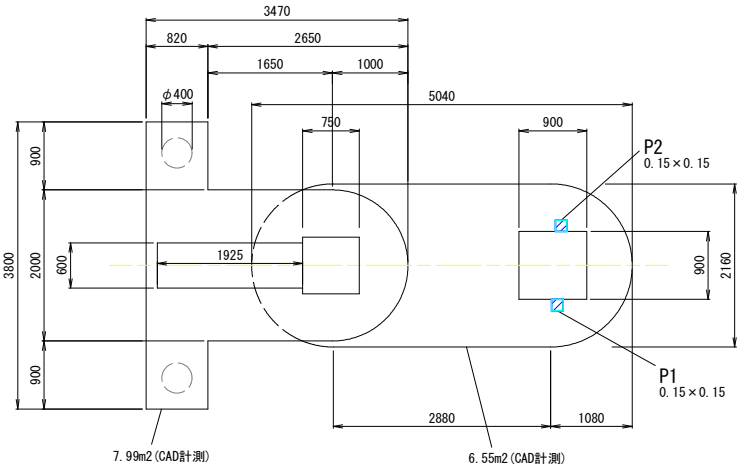
平面図(橋座)



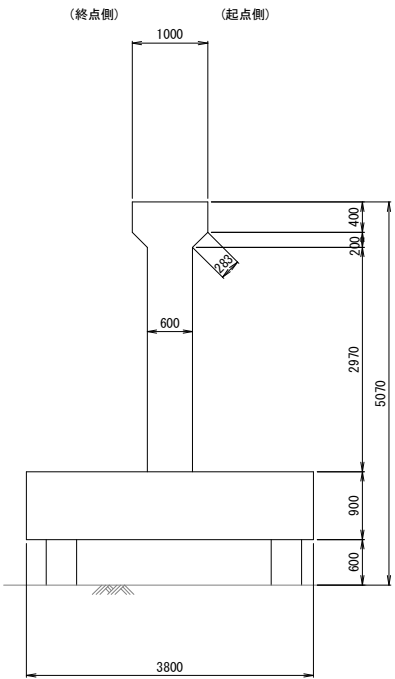
正面図(起点側)



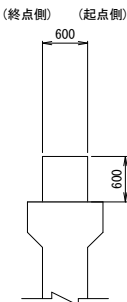
平面図(基礎)



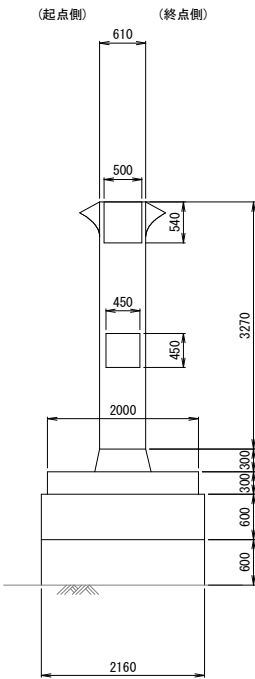
側面図(下流側)



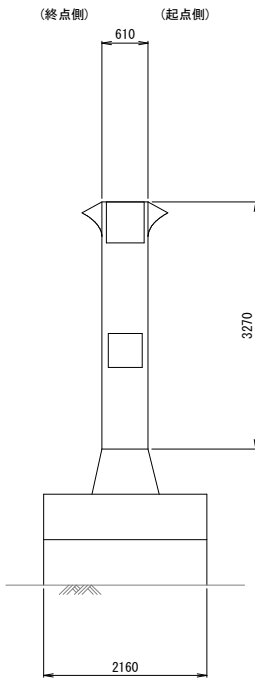
(柱外側)



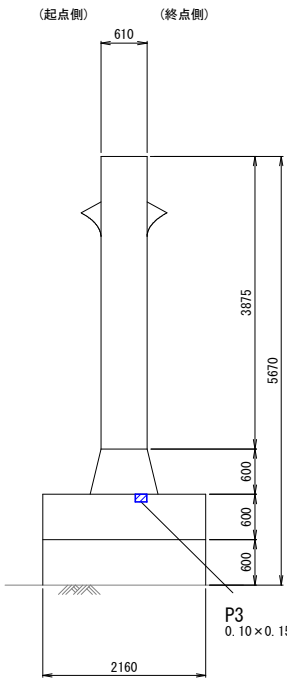
(柱内側)



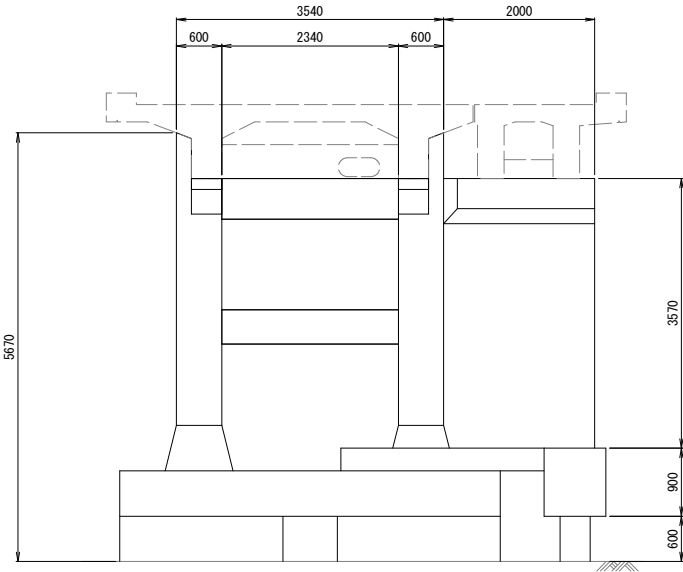
(柱内側)



側面図(上流側)



正面図(終点側)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	×

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

P15橋脚

断面修復工

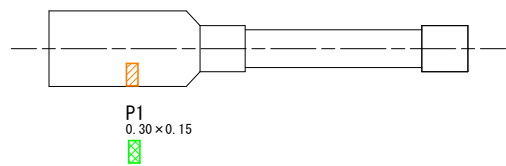
測点	寸法 (m)	面積 (m ²)
P1	0.15 × 0.15	0.023
P2	0.15 × 0.15	0.023
P3	0.10 × 0.15	0.015
合計		0.061 m ²

当初設計図面

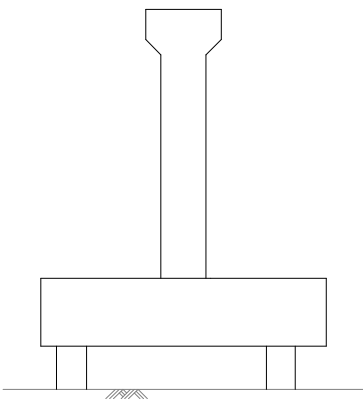
工 事 名	R 7 波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その9)		
縮 尺	1/50	図面番号	33 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

S=1 : 50

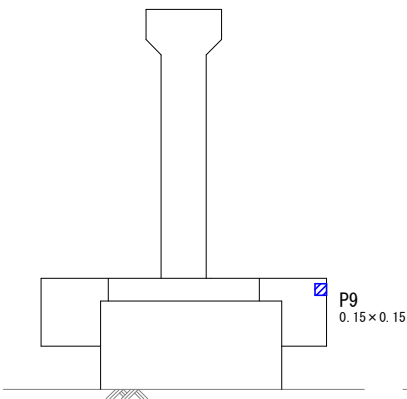
平面図(橋座)



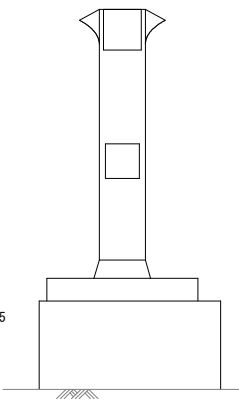
(終点側) (起点側)



(起点側) (終点側)



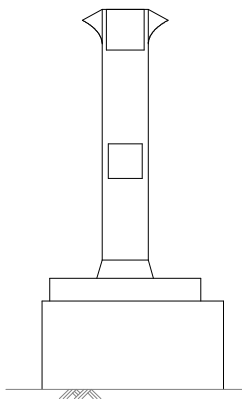
(起点側) (終点側)



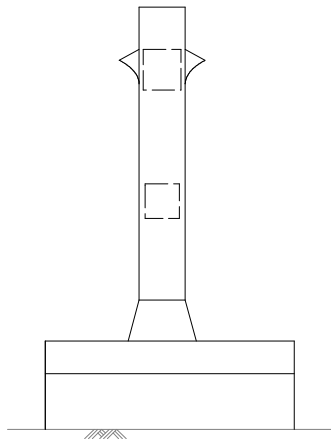
Technical drawing of a building facade section, showing various components and their dimensions:

- Top Left:** A small green hatched rectangle with dimensions 0.10×0.05 .
- Top Center:** A green hatched rectangle with dimensions 0.30×1.35 , labeled **P2**.
- Top Right:** A green hatched rectangle with dimensions 0.40×0.30 , labeled **P4**.
- Center:** A green hatched rectangle with dimensions 0.20×0.65 , labeled **P3**.
- Bottom Left:** A red hatched rectangle with dimensions $5.0-0.7$, labeled **J2**.
- Bottom Center:** A blue hatched rectangle with dimensions $0.5-0.3$, labeled **C1**.
- Bottom Right:** A blue hatched rectangle with dimensions 0.20×0.15 , labeled **P5**.
- Far Left:** A red hatched rectangle with dimensions $0.3-0.3$, labeled **C2**.

(終点側) (起点側)



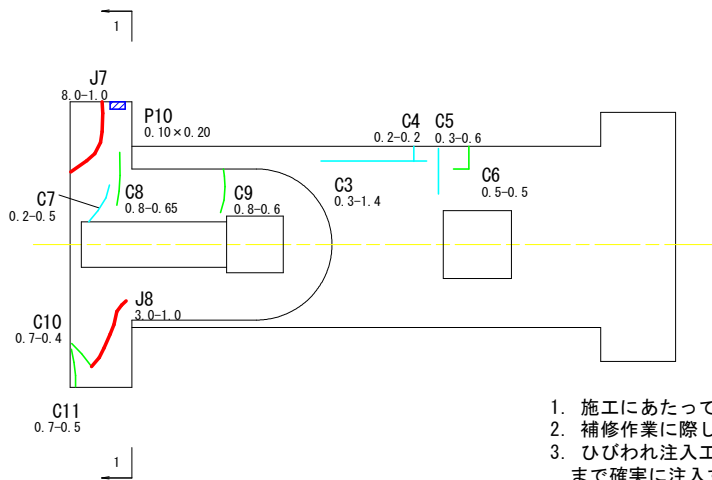
(起点側) (終点側)



Technical drawing of a building facade section, showing structural elements and reinforcement details. The drawing includes the following labels and dimensions:

- P6**: 0.15×0.10 (Green square symbol)
- P7**: 0.35×0.30 (Green cross-hatch symbol)
- P8**: 0.25×0.20 (Green cross-hatch symbol)
- J3**: $1.0-0.5$ (Red vertical line)
- J4**: $1.0-0.25$ (Red vertical line)
- J5**: $2.0-0.5$ (Red vertical line)
- J6**: $1.0-0.6$ (Red vertical line)

平面図(基礎)



P16橋脚

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満		
測点	数量	
C1	0.30	
C2	0.30	
C3	1.40	
C4	0.20	
C5	0.60	
C6	0.50	
C7	0.50	
C8	0.65	
C9	0.60	
C10	0.40	
C11	0.50	
計	5.95	m

ひびわれ充填工

幅1.0以上	
測点	数量
J1	0.10
J2	0.70
J3	0.50
J4	0.25
J5	0.50
J6	0.60
J7	1.00
J8	1.00
計	4.65 m

表面含浸工

合計 0.01m²

既設被覆材除去

測点	寸法 (m)	面積 (m2)
P1	0.30 × 0.15	0.045
P8	0.25 × 0.20	0.050
合計		0.095 m2

断面修復工

測点	寸法 (m)			面積 (m ²)
P2	0.30	×	1.35	0.405
P3	0.20	×	0.65	0.130
P4	0.40	×	0.30	0.120
P5	0.20	×	0.15	0.030
P6	0.15	×	0.10	0.015
P7	0.35	×	0.30	0.105
P9	0.15	×	0.15	0.023
P10	0.10	×	0.20	0.020
合計				0.848 m ²

表面含浸工

合計 0.87m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図（その10）		
縮 尺	1/50	図面番号	34 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南総総合県民局 県土整備部（美波）		

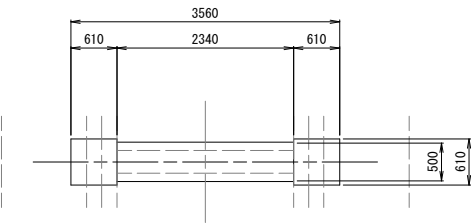
1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において復設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面復修材にて復旧するものとする。

海部川橋 下部工補修図(その11)

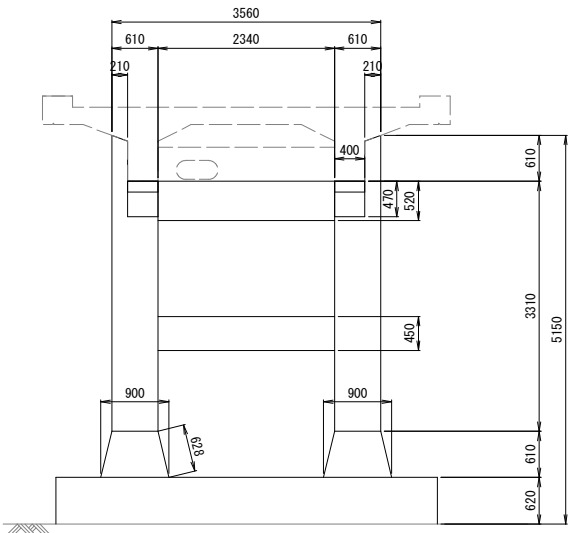
S=1:50

P17橋脚

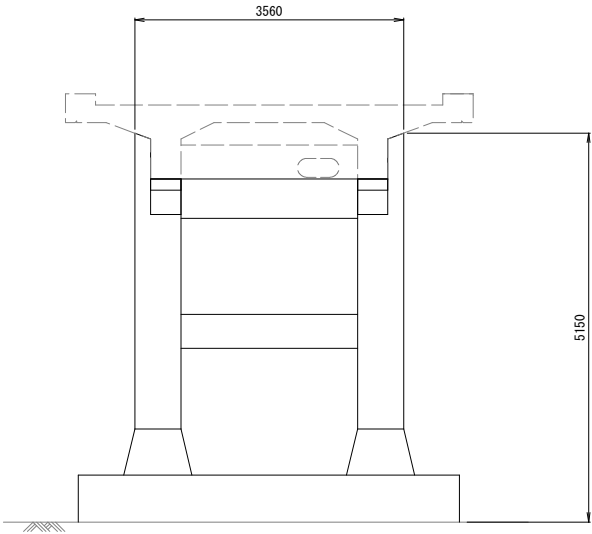
平面図(橋座)



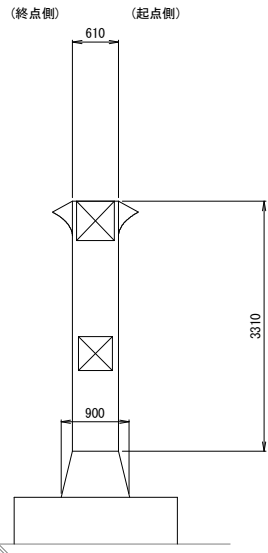
正面図(起点側)



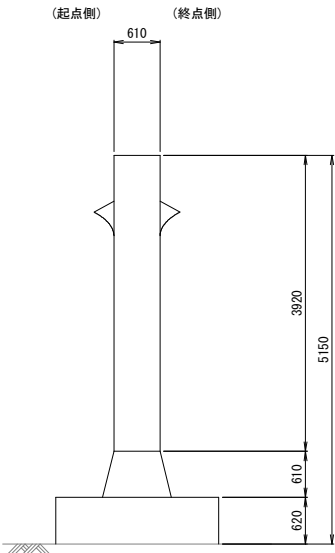
正面図(終点側)



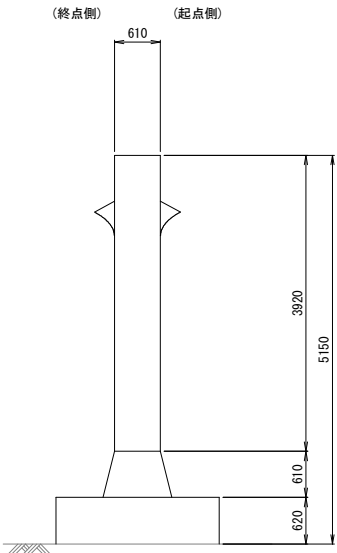
(柱内側)



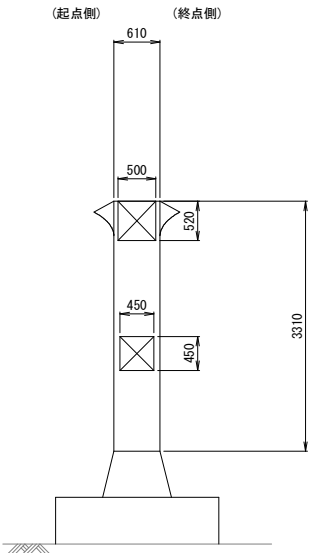
側面図(上流側)



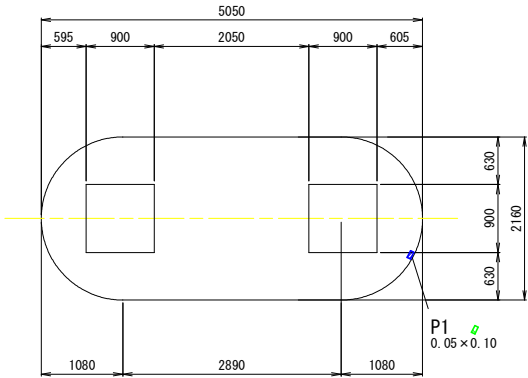
側面図(下流側)



(柱内側)



平面図(基礎)



P17橋脚

断面修復工

測点	寸法 (m)			面積 (m2)
P1	0.05	×	0.10	0.005
合計				0.005 m2

表面含浸工

合計 0.01m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅 (mm) - 長さ (m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅 (mm) - 長さ (m)
ひびわれ充填工	幅 (mm) - 長さ (m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工 (表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

当初設計図面

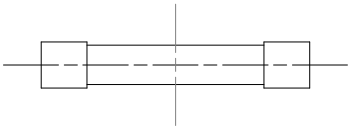
工 事 名	R7波土 四方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その11)		
縮 尺	1/50	図面番号	35 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		

海部川橋 下部工補修図(その12)

S=1:50

P19橋脚

平面図(橋座)



凡 例

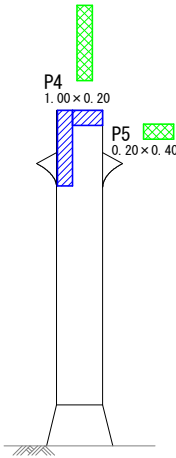
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	
〃 (幅0.5～1.0未満)	
ひびわれ充填工	
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	—

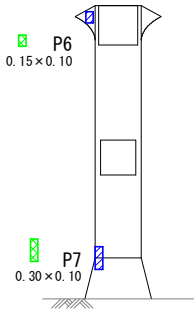
側面図(下流側)

(終点側) (起点側)

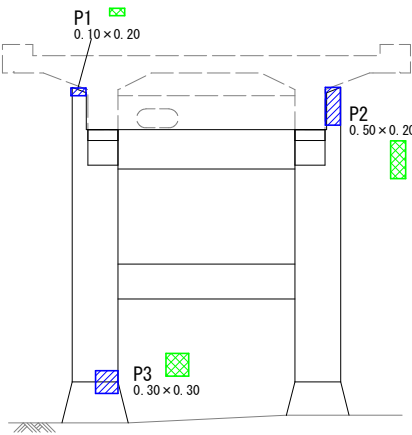


(柱内側)

(起点側) (終点側)

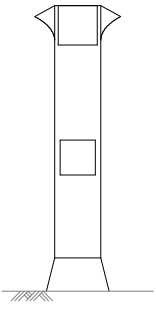


正面図(起点側)



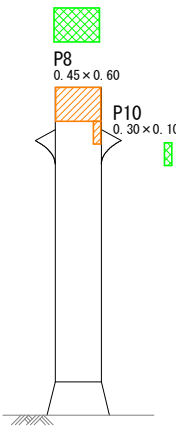
(柱内側)

(終点側) (起点側)

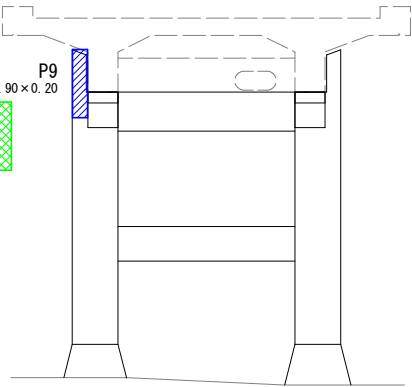


側面図(上流側)

(起点側) (終点側)



正面図(終点側)



P19橋脚

既設被覆材除去

測点	寸法 (m)	面積 (m2)
P8	0.45 × 0.60	0.270
P10	0.30 × 0.10	0.030
合計		0.300 m2

表面含浸工

合計 1.02m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所の入)

断面修復工

測点	寸法 (m)	面積 (m2)
P1	0.10 × 0.20	0.020
P2	0.50 × 0.20	0.100
P3	0.30 × 0.30	0.090
P4	1.00 × 0.20	0.200
P5	0.20 × 0.40	0.080
P6	0.15 × 0.10	0.015
P7	0.30 × 0.10	0.030
P9	0.90 × 0.20	0.180
合計		0.715 m2

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R7波土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その12)		
縮 尺	1/50	図面番号	36 / 36
会 社 名			
事務所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<美波>		